

令和6年度 南アルプス市立大明小学校 学校関係者評価書

南アルプス市立大明小学校 学校関係者評価委員会

- 1 評価実施日 令和7年1月15日(水) 学校関係者評価委員会を開催して実施
- 2 評価の方法 学校が作成した自己評価書をもとに学校関係者評価委員が対談を行い、そこで出された意見を集約して「学校関係者評価書」を作成した。
- 3 評価者 学校関係者評価委員
石川正人(元小学校校長) 長田良子(元小学校教諭)
市川和男(学校協力者) 石川文子(大明小学校区 主任児童委員)
高野晃史(民生・児童委員 大明地区代表)
一瀬 覚(PTA 会長) 永井悠子(PTA 副会長)
自己評価書作成
大久保 学(校長) 河西絵美(教頭)

4 学校関係者評価

(1) 教職員アンケートについて

質問

- ・ICT 機器の活用について今後、何か策はあるのか。
→教職員の研修、情報共有を進め、学級や学年で活用に差が出ないようにする。
ICT 機器を使うことが目的ではなく、児童の思考を促すための効果的な活用について、学校全体で進めていく。
- ・昨年度に比べて否定的な意見が多くなっているが、その理由は？
→学校の日課や行事等が変更されていく中で、教職員の情報共有や議論をさらに深める必要がある。
学校として、重点を置いて児童の教育に取り組んでいくこと、学校教育目標と日々の学校生活のつながりについて、全教職員で意識できるようにしていくことが大切であると捉える。
- ・学校行事や日課時間等、今年度から変わったことが多くあったように見受けました。その分、先生方のご負担も恐らく多くあったことと思います。9か月を経過し、今後の見通しや反省点など聞かせていただければと思います。
→運動会の内容・競技等の見直し、清掃時間の確保を来年度、行っていく。
- ・今年度は、運動会、文化発表会、道徳の授業などにたくさんご招待いただき、学校の様子、児童や先生方がのんびりなどがとてもよくわかって、うれしく、また頼もしく思えました。特に、文化発表会については、5年生の打楽器指導に直接関わらせていただきました。自分が現役で指導していたころに比べ、とてもレベルが高くて驚きました。そこで質問ですが、行事と日々の通常授業の関連はいかがでしょうか？
→運動会や文化発表会に向けて特別日課を組み、取り組んでいる。特別日課中に増加した「体育」や「音楽」等の教科は、行事の前後で調節している。目標自体を見直し、日々の授業で取り組んだことの成果が発揮できるようなものを運動会の種目や文化発表会の発表としている。今後、さらに保護者にその旨を丁寧に説明していく。

意見

- 学校開放日について、兄弟で学年を分けられてしまうと親の時間調節が大変になる。
- 挨拶について、小中一貫教育であれば、中学生がお手本になる挨拶を強化してはいかがでしょうか。
- かつては、運動会で、普段の授業とは全く乖離した巨大な組立体操なども行われていましたが、最近では授業で行っているものの発展型になっているようです。この機会に、大明小の素晴らしい取り組みの数々と日々の授業との関連について振り返ると共に、行事の目的やその内容について保護者や地域と共有できるような情報発信を工夫していただければと思います。
(学校行事は、あくまで教育活動の手段であり、いわゆるお祭りやエンターテイメントとは異なる、ということへの理解を深めていく。)
- アンケートからではないのですが、たまに学校にお邪魔した際に感じる事です。先生方が皆子どもたちに愛情をもって接しておられることを強く感じております。それが子供たちや保護者からの信頼につながっているものだと思います。お忙しい中頑張っておられる先生方に心より感謝申し上げます。
- いくつかの行事に参加させていただき、子どもたちのがんばりと先生方のご尽力を具体的に拝見して、大明小学校教育の素晴らしさを実感することができました。ありがとうございました。
私は、月に10回ほど下校見守りをさせていただいています。その際、単に見守りだけでなく、主任児童委員として、そこで出会う児童、保護者、先生方、地域の方と話をし、学校の状況を把握するようにしています。(がんばりの様子や悩みはともかく批判的な声は全く耳にしません。)その中では、大明小教育の素晴らしさを、生の声として確認することができます。
大明小には、その特性に応じて多様な支援学級が設置されていて、多くの児童が手厚い支援の元のびのびと学んでいるのがわかります。特に、職員アンケート19からも、支援委員会が十分機能し担当者一人が抱え込むのではなく全校体制で取り組んでいることが確認できます。支援コーディネーターの先生との雑談の中からも、大明小の支援教育の素晴らしさを感じることができました。とはいえ、日々児童と接している先生は、特別支援教育を専門に学んだ先生ばかりではないので、そのご苦労や葛藤はいかばかりかと想像します。また、支援学級の児童に限らず、子どものことで悩みながら懸命にがんばっている保護者の健気な声も耳にします。
- 小中連携に関しても、まだ1年目ということもあり、手探りで始まったといった段階ではないかと感じました。せっかく隣同士で距離的にもごく近いところにあるので、良い取り組みができればと願っております。

(2) 保護者アンケートについて

質問

- ・保護者アンケートの回答率が76.4%というのには少々驚きました。56軒の家庭がアンケートを提出していないのはなぜでしょう。残念なことです。多くの保護者に提出してもらいたいです。
→今後もさらに呼びかけを強化していく。

意見

- いつも気になるのですが、教職員アンケートと児童アンケートがおもに自分たちの活動について自己評価をしているのに対し、保護者アンケートは、企業の顧客アンケートのようにおもに「保護者が学校や児童について評価する」スタイルになっています。学校は保護者の気持ちや要望を把握する必要があるのですが、保護者は学校と共に子どもたちの教育を担う主体でもあるので、保護者自身や家庭の取り組みを顧みる項目も必要だと思います。

特に、項目9の「家庭学習」や「生活習慣」については課題意識をもっている保護者も多いようなので、各家庭での取り組みや意識を問う項目がほしいです。(例えば、意欲喚起や習慣づけについての各家庭の工夫や取り組みを問う、とか・・・)

大明小は違うとは思いますが、「学校は児童への教育を提供するサービス機関」ととらえる方が多いような気がします。「消費者」の意識)しかし、こと「教育」に関しては、保護者は学校と共に児童の教育に直接携わる「生産者」の立場であるはずで。したがって、課題に対し、「学校がなすべきこと」と共に「保護者・家庭がなすべきこと」を考える必要があると思います。

せっかくの「学校評価」ですので、共に子どもの教育に携わる「生産者」として、「学校のはたすべき役割」「保護者・家庭がはたすべき役割」について考える機会になるよう、アンケート結果や考察、そして評価委員の意見などを有効に活用していただければ、学校評議員・関係者評価委員としてうれしく思います。

- 授業や学力向上についてなど、学校の対応について問うだけではなく、例えば「宿題や家庭学習など家庭でどれだけ関わっているか」を聞く質問があってもよいと思う。交通ルールも含め、学校での指導を求めるだけではなく、各家庭で、勉強の理解度や授業の進み具合などを把握することは、最低限、必要だと思う。
- アンケートを見ると、今年度、運動会・清掃・給食着・チャレンジタイム等多くの改革がなされてきたように思えます。また、小中一貫校への取り組みも始まり、保護者からの様々な意見に対応し、理解を得ていくことの難しさをからためて感じさせられました。とにかく折あるごとに何かにつけて細かく丁寧に発信・説明していくことが大事なのでしょうね。
- 学校からのお知らせメールとても助かります。子どもたちの伝え忘れがあったりしますので、メールは上手に活用してほしいです。
- 各質問で「そう思う」という回答が減っている点が気になります。
- 大多数の保護者が、大明小学校の教育活動に対し理解を示していることは、日々の先生方のご努力の賜だと思います。感謝申し上げます。

(3) 児童アンケートについて

質問

- ・中間の学年で「楽しくない」という回答の理由は？
 - 「学習が分からない」「友達とうまくいかない」「学校が不安・つまらない」「居場所がない」となっている。今後、児童の様子をさらに丁寧に見取り、児童一人ひとりの不安感をなくすよう努力していきたい。
- ・まとめの文章の中に、「不登校傾向」とか「いじめ」といった言葉が出てきますが、どのような実態が見られるのでしょうか。保護者の記述の中にも「いじめがありそうだ」といった文章があります。気になりますが、いかがでしょうか。
 - 口頭で、学校の実態について説明を行った。
- ・いじめがあると答えている学年があるが、先生や学校は把握しているのか。
 - 把握し、対応している。市教委等にも学期ごと報告している。

意見

- 「友達と会えることが楽しい」が多い。これと教育をどのように結び付けていけるかが課題となる。
- 「学習が分からない」などのマイナス回答をどのように解消するか、課題。さらに追加のアンケートを取るなどして、何の教科なのか等の統計を取るなどして、対応を考えていくことが必要だと思う。
- 楽しくないと答えている低学年の子の今後の気がなる。大明保育所がわりと自由なので、小学校に

入ってから大変だなと感じていたが、それも理由にあるのか?と思う。

○友達とのコミュニケーションの中で、「嫌な気持ち」を抱いてしまった時の処理の方法や等を児童が協議していく機会を授業の中に多く取り入れていくことも大切ではないか。そして、学校での取組を保護者へも伝え、家庭でも親子で一緒に話し合ってもらえると、良いのではないのでしょうか。

○90%を超える子どもたちが、学校は楽しいと答えているとのこと、これは保護者としてもとてもありがたいことだと思います。子どもたちが楽しい学校生活を送るためには、先生方・児童・保護者の間に良い人間関係ができていることが必須だと思います。良い関係が今後も続けられますよう願っております。

○困ったときの相談者が両親に続き、「友達」が多い結果でしたが、とても学校生活の良さを感じることがができます。相談できない児童もおりますので、「お悩み相談ボックス」の設置などいかがでしょうか。

○携帯電話に関しては、これはすべて家庭の問題ではありますが、そうとばかりは言っていられないような状況にもあるのではないのでしょうか。今後も児童と保護者が共に学ぶ機会を作っていただければと思います。

保護者や地域に、学校の取組や教育への考えをこまめに情報発信していくこと、発信の仕方をさらに工夫していくことが大事になると思います。そうすることで、学校だけが児童の教育を担っていくのではなく、学校と保護者、地域は「教育の協働生産者」という意識を学校も保護者も、地域も持てるようになっていけると期待しています。

多岐にわたる教育課題に真摯に向き合い、取り組んでいる教職員の皆様の御尽力と懸命に子育てに奮闘している保護者の皆様の御努力に敬意を表し心からのエールを送ります。この学校関係者評価が、大明小教育をよりよくしていくためのヒントや新たな視点となっていいただければ幸いです。

作成責任者 大明小学校関係者評価委員会
評価書作成事務 大明小教頭 河西 絵美

令和6年度 大明小学校の教育について(教職員自己評価)の結果とまとめ

調査対象人数:教職員 26 人

調査実施時期:令和 5 年 12 月 4日(水)~12 月 23日(火)

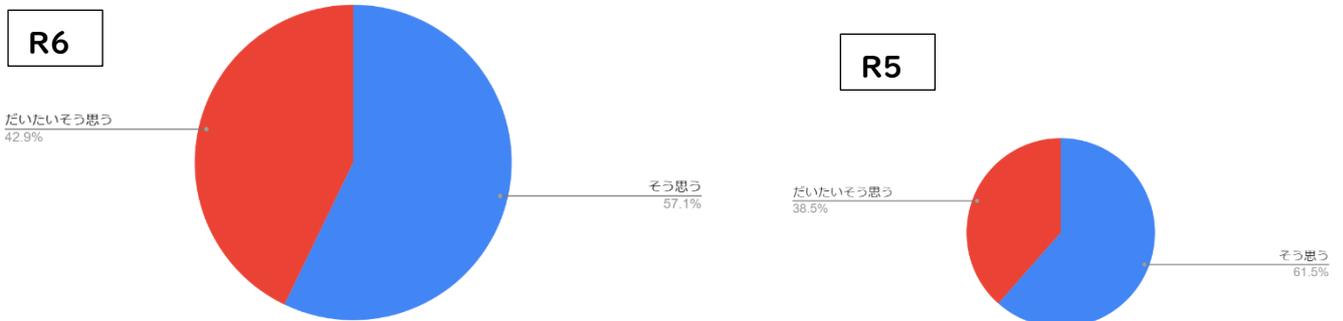
昨年度、評価項目の見直しを行い、2年目の評価となる。左側の円グラフが今年度の評価結果となり、右側の小さめの円グラフが昨年度の評価結果となっている。

学校経営目標

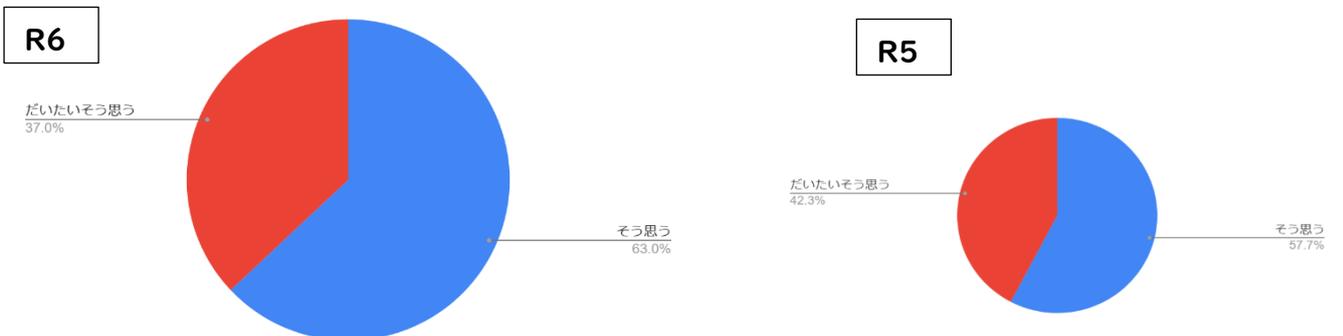
1. 学校教育目標や具体的行動目標は、適切に設定されている。

「自ら考え 活動する 心豊かな子ども」

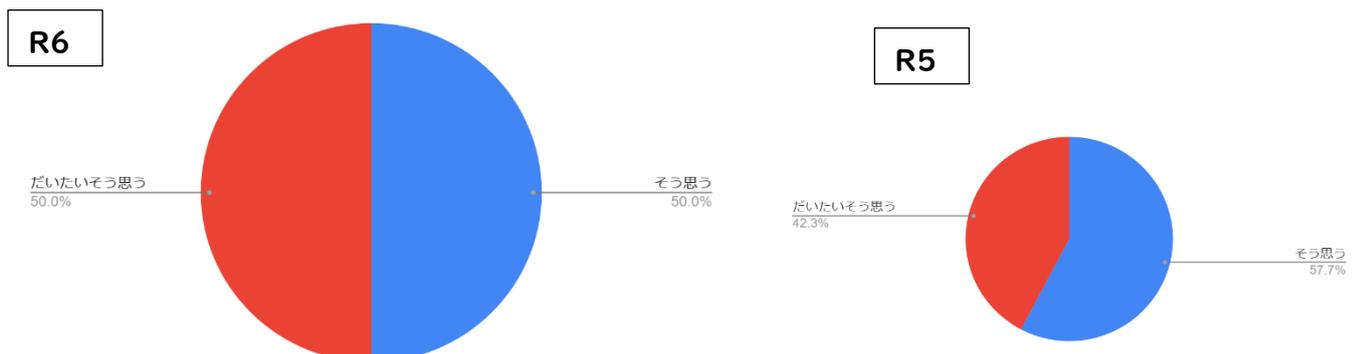
～あいさつができる きまりが守れる 進んで学習できる 思いやりがもてる～



2. 学年学級の教育活動は、学校教育目標を踏まえたものになっている。



3. 学校教育目標や経営方針が児童や保護者に理解されるよう配慮されている。



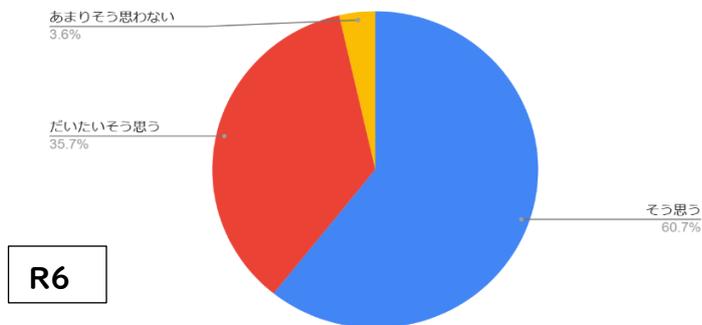
【考察・改善点】

教職員が学校教育目標や具体的行動目標を意識し、共通理解をもって教育活動に取り組むことができている。

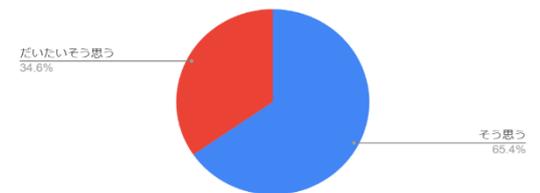
学校のHPや学校・学年だより等で本校の経営方針や日々の教育活動の様子を適宜、保護者や地域の方々に伝えている。保護者のアンケート結果を見ても、90%以上は、肯定的な意見となっている。今後も保護者や地域の方々の願いや要望を丁寧に聞き取り、経営方針や重点的な取組に生かし、教育活動を円滑に進めていきたい。また、さらに学校での教育活動の様子を保護者や地域の方々に伝えていけるように努力していきたい。

学校組織・学校安全

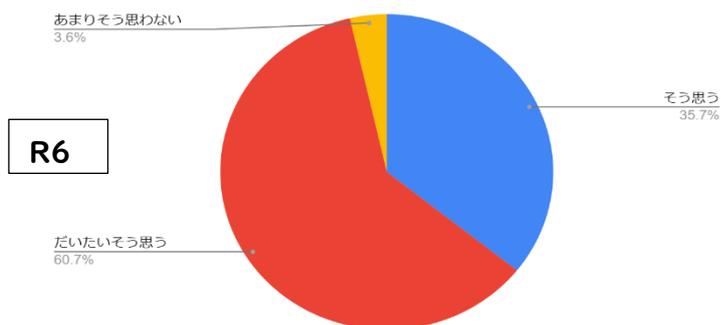
4. 学校運営に関する報告・連絡・調整はスムーズにできている。



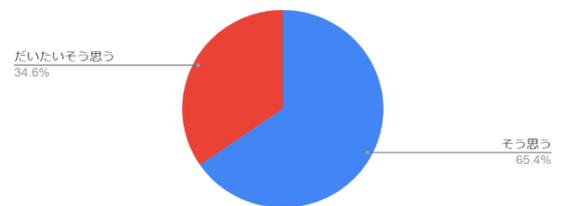
R5



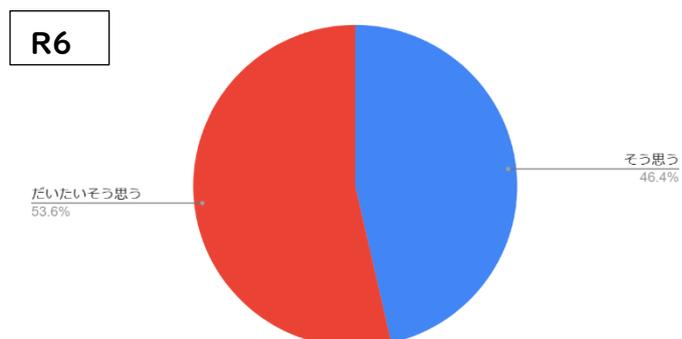
5. 会議や打ち合わせは学校運営に適切に機能している。



R5



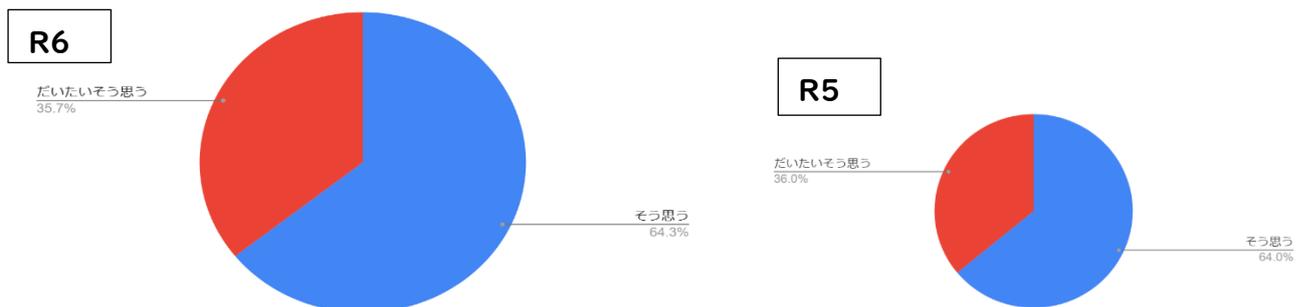
6. 教育課程に本校の特色が生かされている。



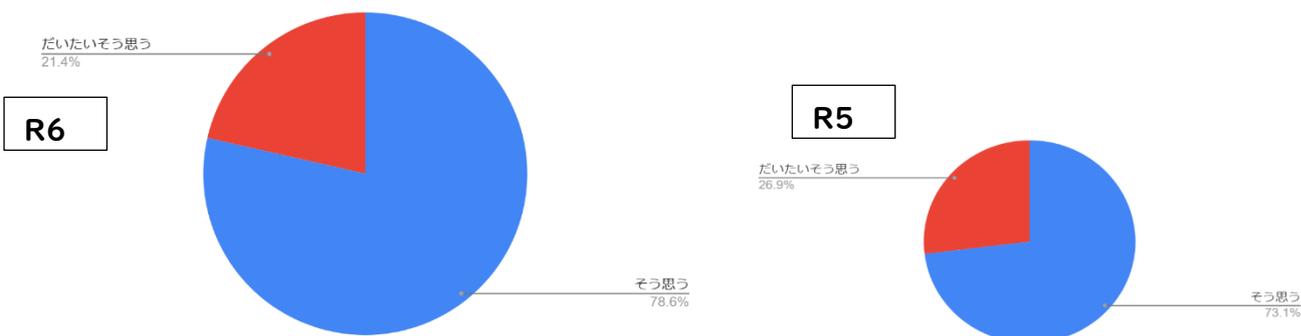
R5



7. 研究主題は、学校課題に合った適切なものである。



8. 校舎内外の施設設備について定期的に点検し、結果を適切に処理している。



出された意見

4. 明るく思いやりある職場で、毎日安心して勤務することができる。

50チャレンジタイムや休息タイムが導入され、私たちの働き方改革のためには、良かったと思う一方で、最終的な決定が主任会議でなされました(と思っている)子どもたちのことを考えて、昼休みがなくなるのが果たしてよいのか、全員でもっとよく話し合って結論を出した方が良かったのではないかと考えている。子どもたちが体を動かす時間が減ってしまうことは、体力向上や運動能力等を高めるには、マイナスではないかと思う。また、新入児の入学準備のための保護者負担を減らすという目的で、給食着や上履きを自由化した。これも十分話し合いがされないまま、決定した感があった。

○会議などの時間を決めて欲しい。(例) 校内研は15:00~とか、終礼は何時からとか...

【考察・改善点】

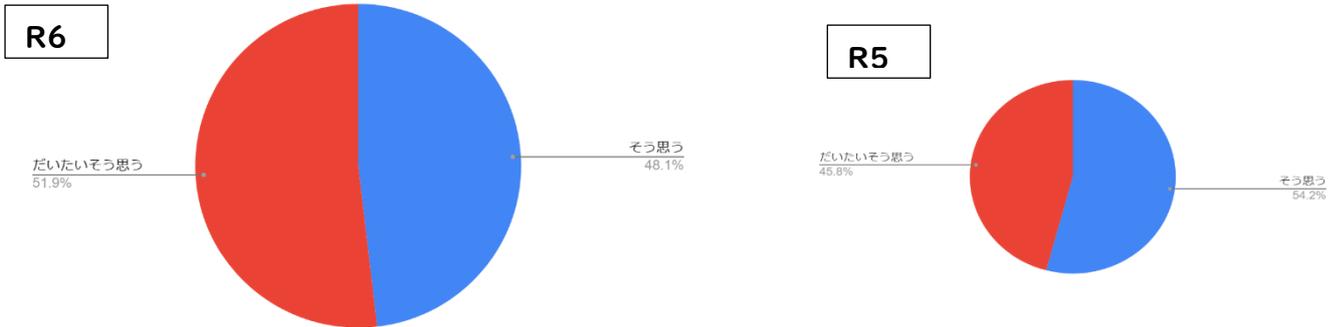
ほとんどの教職員間は、連絡調整がスムーズにでき、会議等は適切に機能していると感じている。しかし、一部の教職員は、改善が必要であると回答している。学校体制に関わることについては、今後も全員の教職員で熟考を重ねて、決定していけるようにしたい。また、勤務体制により、半日勤務の教職員がいたり、曜日によって勤務しない職員がいたりするので、連絡漏れや情報共有が滞らないよう、これからもさらに工夫改善に努めていく。

校内研究においても、学校や児童の実態に即し、研究主題が設定され、教職員全体で授業づくりに取り組むことができていると感じる。今後も、教職員の共通理解のもと、授業づくりに取り組んでいく。

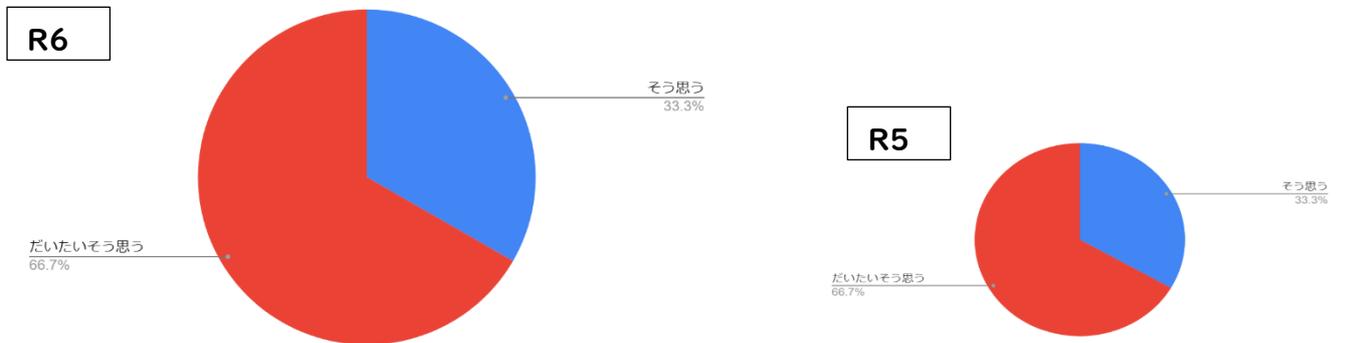
校舎を含め、学校施設や設備の老朽化が見られる。修繕が必要な場所は、市教委への依頼も含め、児童の教育活動や生活に支障がないように修繕に取り組んでいきたい。今後を見通した学校施設整備に取り組んでいきたい。

学習・生徒指導

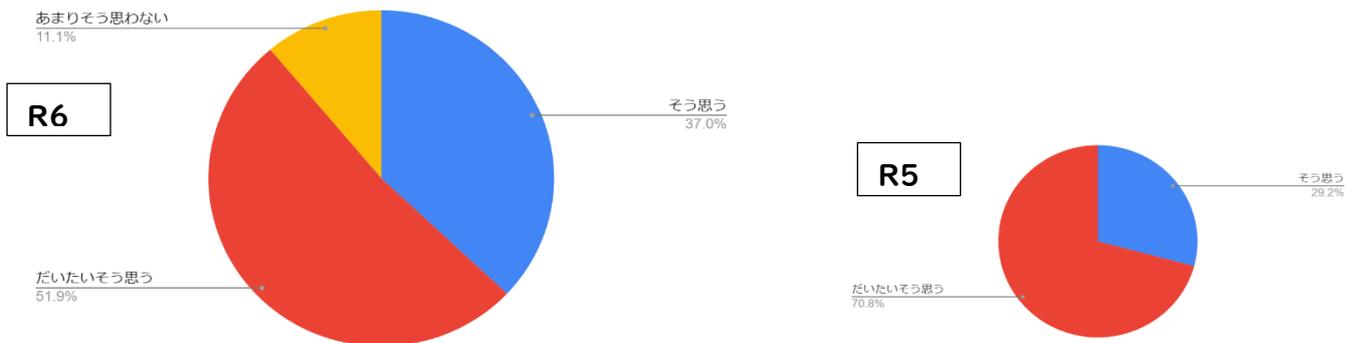
9. 教材研究・事前の準備等を行い、分かる・楽しい授業づくりに努めている。



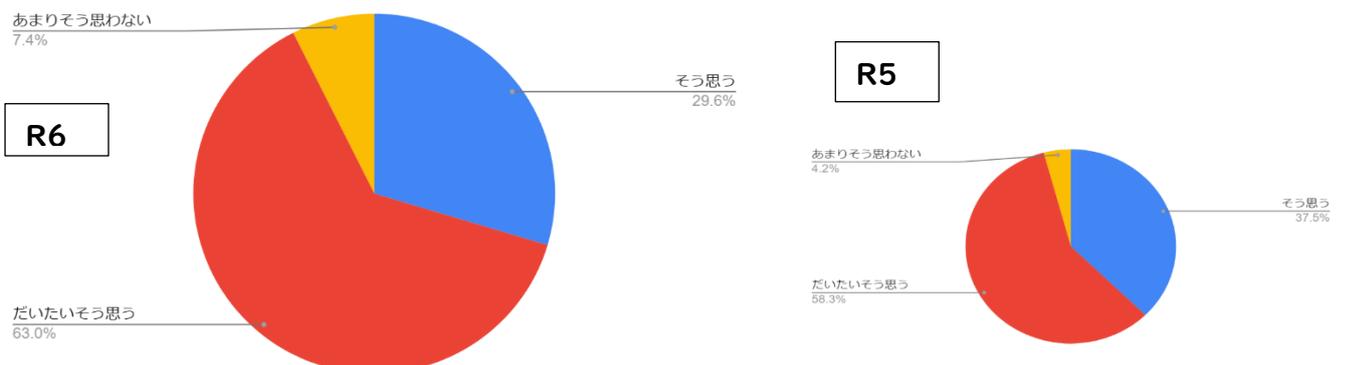
10. 創意工夫のある授業実践を通して、自ら学ぶ意欲と態度を育てることができている。



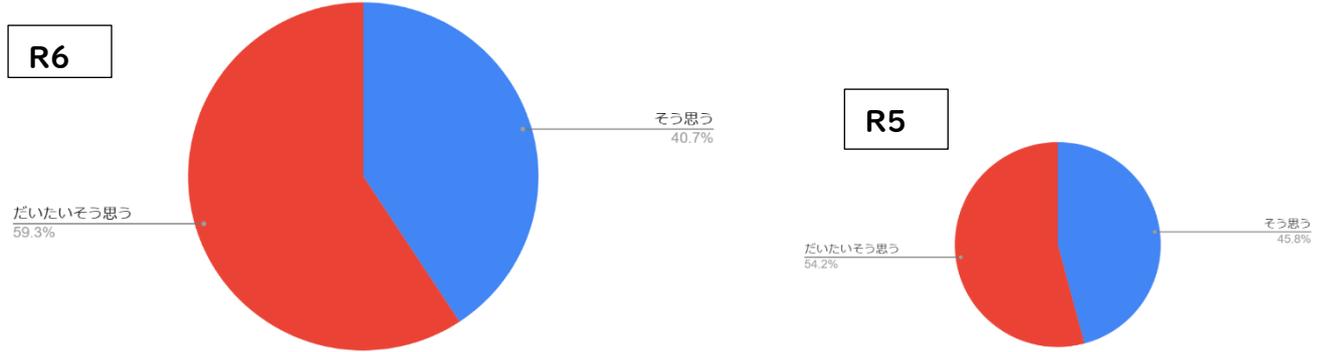
11. 授業でICT機器やタブレット端末を有効活用し、深い学びにつながるような工夫をしている。



12. 道徳の時間を要として、道徳的実践力・道徳性などが高められている。



13. 学級活動や児童会活動は、自主的・自発的に運営されている。



出された意見

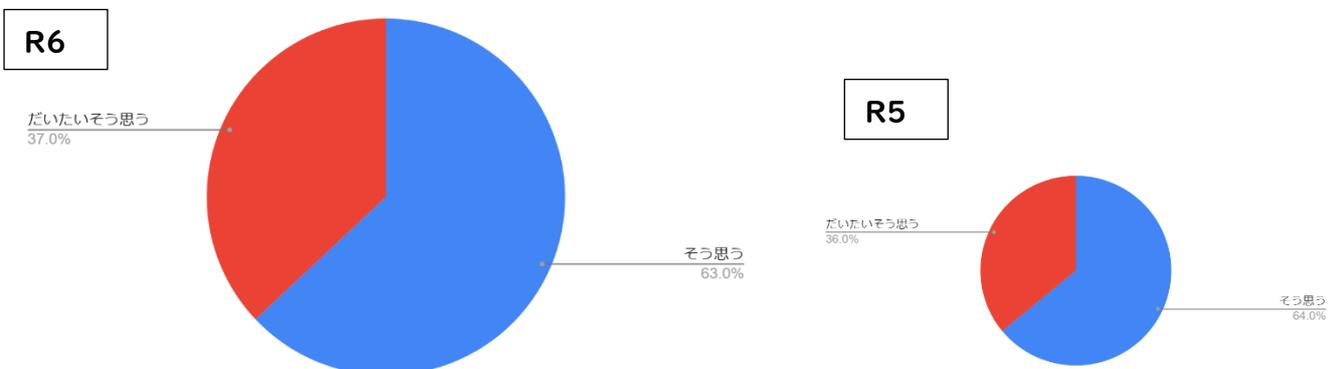
12. 道徳の授業に関連し、小笠原流礼法を学習しているが、実践力が高まっているとは思えない。その時間だけのものにしないためにも、学習した後の担任の指導が必要だと思う。

【考察・改善点】

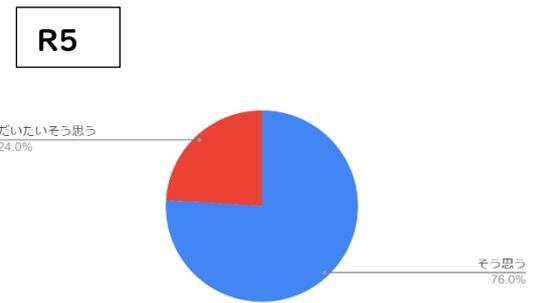
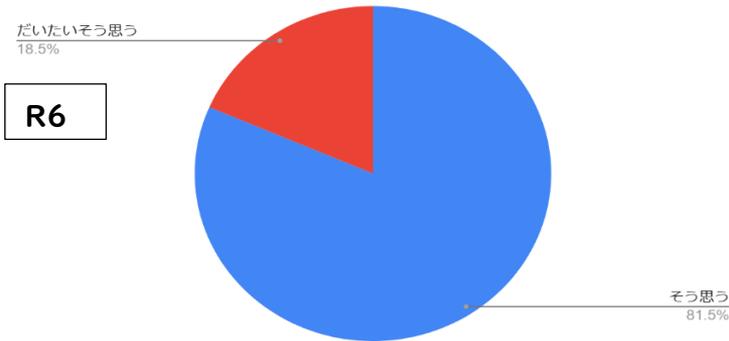
学習指導においては、各教職員が教材研究や児童の実態把握に努め、授業づくりを行っている。保護者の方々も、学校の学力向上の取組について、肯定的な回答が多かった。しかし、児童が授業を十分理解しているかという質問に関しては、15%ほどの保護者が、「あまりそう思わない」と回答していて、児童のアンケートでも、約11%が「あまりわからない・わからない」と否定的な回答をしている。今後も、さらに、研究と修養に努め、児童にとってわかりやすい授業を創意工夫していく。また、授業や家庭学習でのICT機器の有効活用についても、さらに、教職員の研修を重ね、推進していきたい。

道徳的实践力や道徳性を高める教育に関して、若干の改善が必要という意見が見られる。道徳の時間を充実させるとともに、日常生活に生かしていけるよう、道徳の授業と生活のつながりについてさらに意識した取り組みを仕組んでいく必要がある。

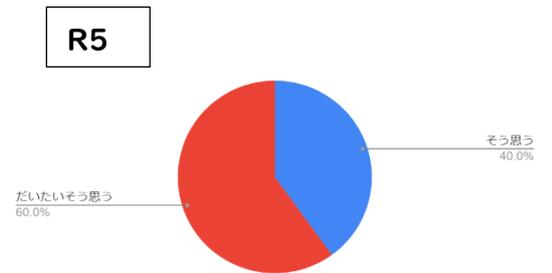
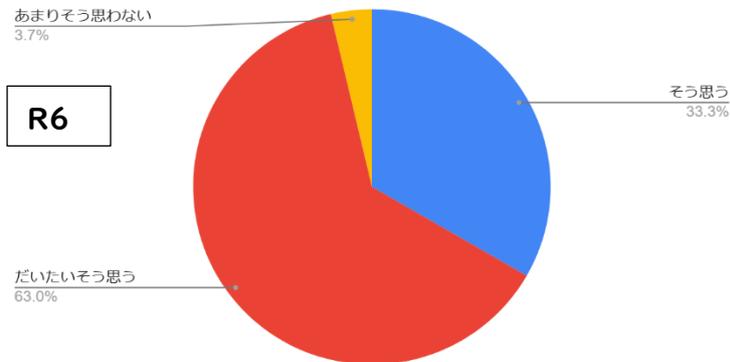
14. 学校行事は、学校生活に活力を与えるよう計画運営されている。



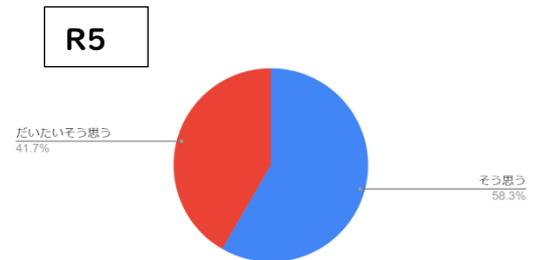
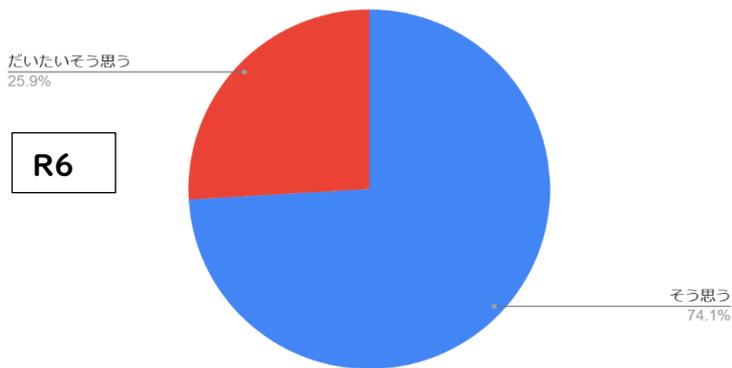
15. いじめのない(許さない)誰もが楽しい学級・学校づくりに努めている。



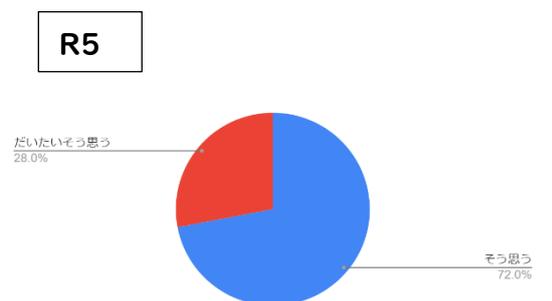
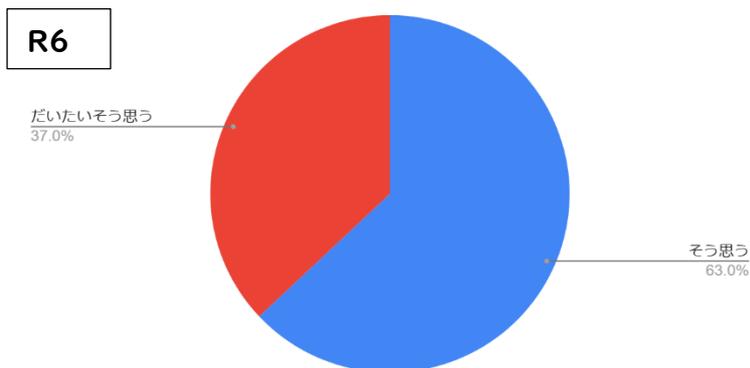
16. 読書に親しみ、読書意欲を高めるような指導に努めている。



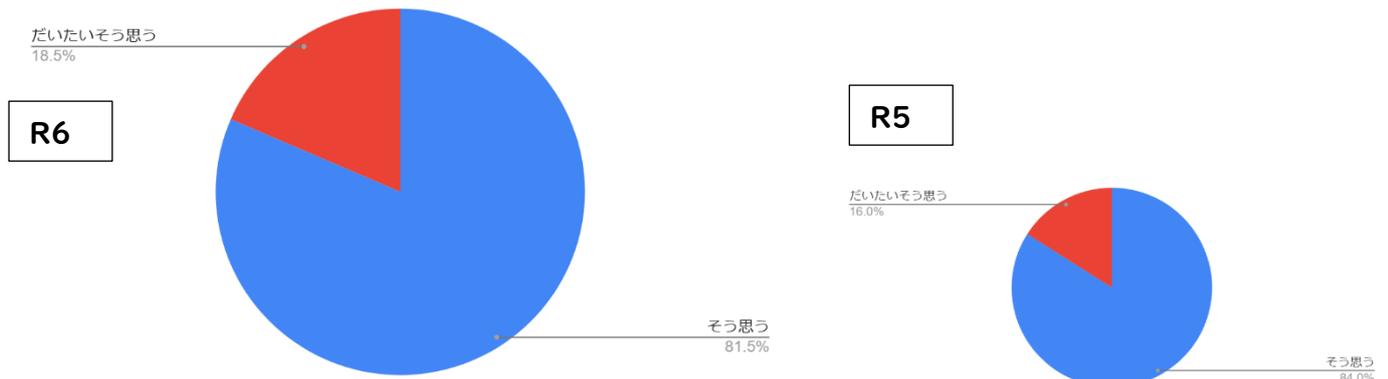
17. 自分の命を守る行動がとれる児童の育成に努めている。



18. 職員が共通理解をもち生徒指導を推進している。



19. 支援委員会を中心とした支援が適切に行われている。



出された意見

16. 子供たちが本を読む子と読まない子に分かれてしまっているように思う。私たちの指導不足だと思う。読書週間の反省も2~3人の意見しか出ていなかった。教科でも、タブレットの活用に偏りすぎているように思う。

【考察・改善点】

教職員が共通理解のもと、生徒指導・支援にあたっている。支援委員会も十分機能しており、学校全体で児童の指導支援ができると自己評価している。

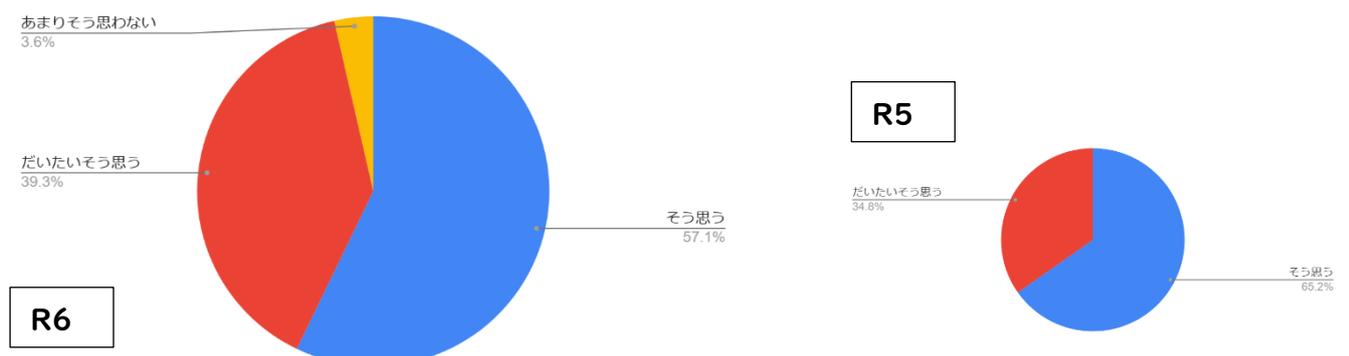
本校は、若い教職員が多いが、特別支援コーディネーターを中心に、支援が必要な児童への支援も全校体制で取り組むことができている。今後も、担任だけで抱え込むのではなく、全校体制で児童を支えていくことができる体制を持続していきたい。

上記の道徳的実践力とも関わって、全ての児童が安心して学校で過ごすことができるようにしていきたいと考える。

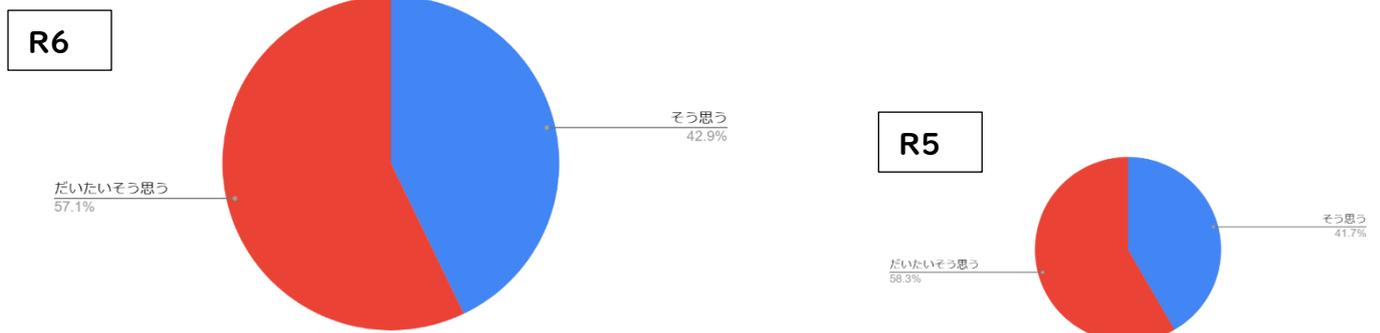
「いじめ」の防止についても、多くの教職員が、意識を高く持ち、指導に当たっていることがわかる。しかし、保護者アンケートと比較してみると、若干の意識のずれが感じられる。児童の様子や気持ちをさらに丁寧に見取っ汰り、聞いたりしていくとともに、学校での指導や取組を保護者に詳しく伝えていくようにしていきたい。

家庭・地域との連携

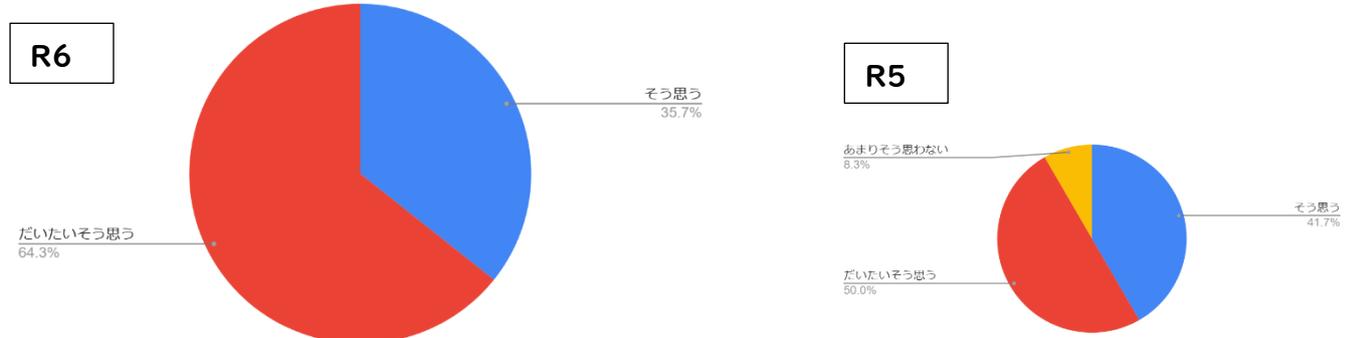
20. 授業参観・懇談会は適切である。(回数・内容・出席率)



21. PTA活動は目標達成のために展開されている。



22. 地域の人材や学校応援団を積極的に活用している。



出された意見

20. 開放日が多いと思います。開放することはとても良いですが、参観に来る保護者も限られている中で負担が大きい気がします。授業参観に出席する保護者が多いのでその日だけを開放日にするのがよいのではないかと。

【考察・改善点】

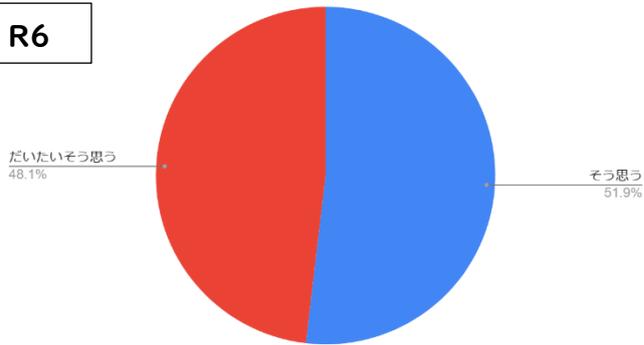
昨年度より、授業参観に加えて、学校開放日を1、2学期に3日ずつ設定した。保護者からは、「普段の授業の様子や児童の生活の様子を見ることができ、良かった。」という肯定的な意見が聞かれている。来年度以降も、より多くの保護者が都合をつけられるよう、3日ずつくらいの学校開放日は設定していきたい。

今年度、地域人材の活用として、4年生の総合的な学習で大明小ばやしの指導や地域の伝統工芸について学ぶということができた。また、さつまいもづくりの指導も、昨年度から引き続きしていただくことができた。まずは、教職員が、地域人材や学校応援団について、学ぶことが必要である。地域にどのような人材、教材があり、どのように教育課程に生かすことができるか、教職員で協議し、積極的に活用できるようにしていきたい。

児童の姿

23. 児童は、学校が楽しいと感じている。

R6

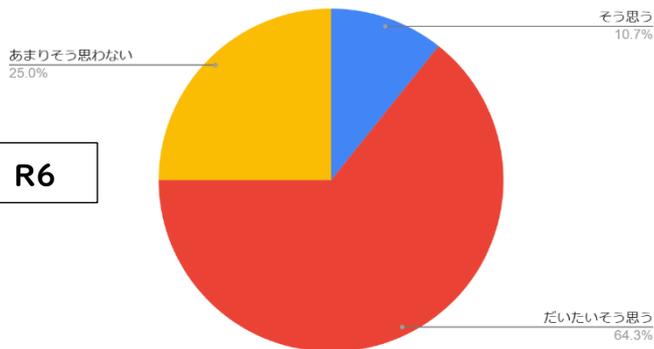


R5

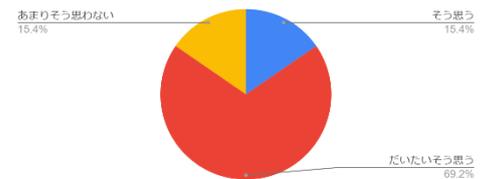


24. 児童は、明るいあいさつができています。

R6

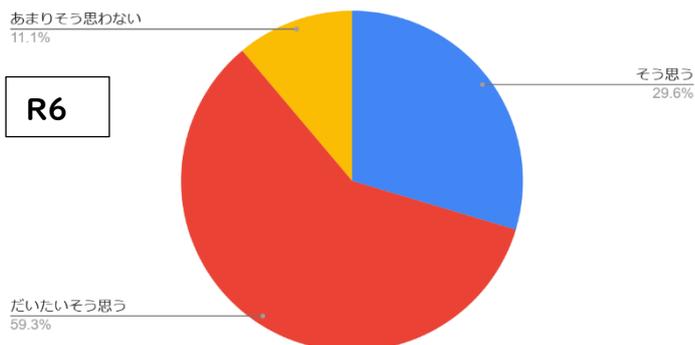


R5

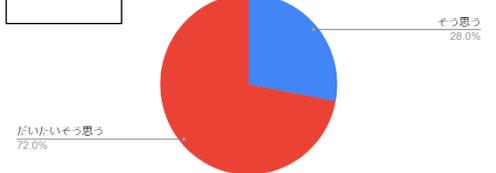


25. 児童は、清掃活動にまじめに取り組んでいる。

R6



R5



出された意見

24〇残念ながら、明るい挨拶があまりできていないと思う。こちらから明るい声と笑顔で挨拶をするようにしている。児童会選挙の演説でもあいさつ運動の話が出ていた。進んで明るい挨拶ができるようにみんなで取り組んでいけるとよい。

〇顔を覗き込んで挨拶するようにしている。

〇自身の課題にもなるが、子どもたちが「楽しい」「あいさつって大切」と思ってもらえるような働き掛けを普段から意識して行っていくことが大切だと感じている。今後も子どもの立場や考えに合わせて教師がモデルとなって行っていけるように努める。

25〇清掃活動についてですが、児童は清掃活動に取り組んでいるが、週2回の清掃では、少ないと思う。しかも木曜日は、低学年は読み聞かせがあるので時間が限られている。効率的にするように声をかけたいと思う。

〇掃除が週に2回になり、校舎内の汚れが気になり、わたしたちがささっと掃除をしてしまうことが多い。

〇清掃回数が少なくなったこともあるのか、校舎内が汚れていると思う。私の見回り担当をしている場所は、子供たちだけではきれいにならず、手を貸したり、放課後やり直しをしたりすることもあった。

〇感染症が2学期様々流行りました。掃除の時間が減ったことも要因として考えられるように感じた。掃除は毎日取り入れていくことが必要だと思う。

【考察・改善点】

教職員の多くは、児童は、「学校は楽しい」と感じていると考えているが、児童や保護者アンケートの結果と比較すると、若干であるが、差が見られる。どの学年でも、わずかではあるが、「学校が楽しくない」と感じている児童がいるので、これからもさらに丁寧に児童の思いや気持ちを聞き取り、様子を観察し、家庭と綿密に連絡を取り合っていく必要があると感じる。

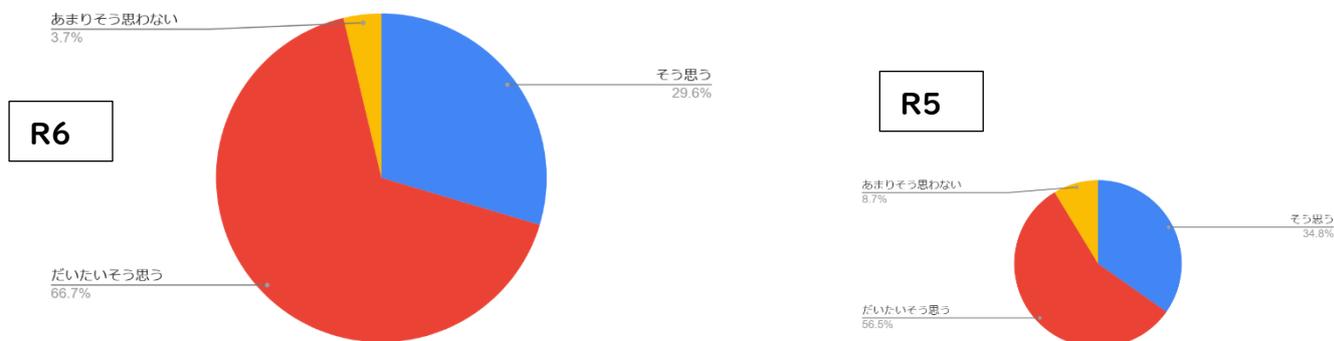
児童のあいさつは、児童や保護者と教職員の間に若干の意識の差が見られた。児童の良さや頑張りは認めつつ、より明るいあいさつについて、児童と共通認識をもてるようにしていく。

清掃活動への取組については、教職員と児童との思いにあまり差はみられなかった。しかし、清掃の回数が減ったことで、校舎の汚れが気になっている教職員が多い。来年度以降、日課表に反映していけるようにしたい。

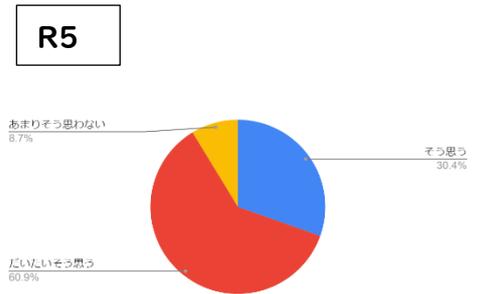
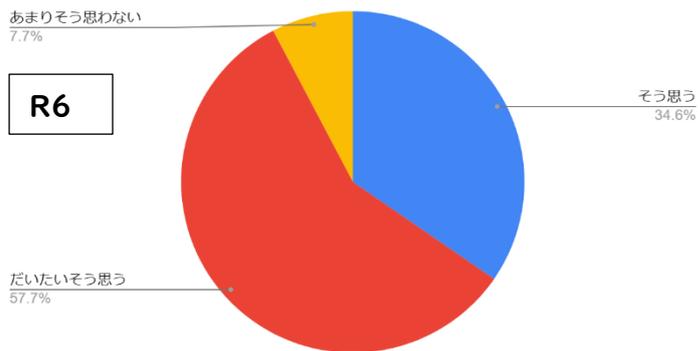
本校の児童は、まじめに働くことのできる児童が多いと感じている。児童に肯定的にフィードバックするとともに、教職員も児童と一緒に働くことを続けていきたい。

小中一貫教育

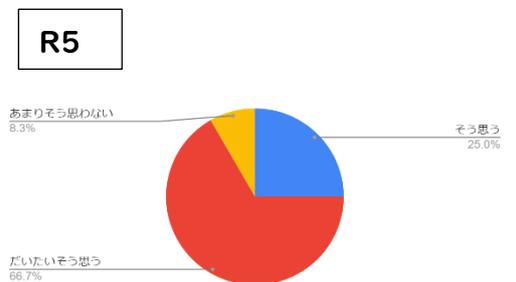
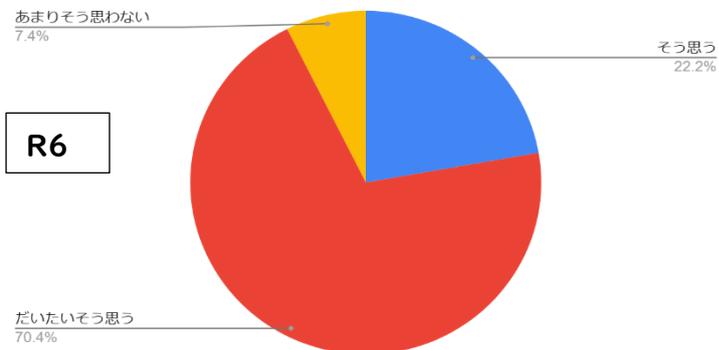
26. 小中連携の目指す児童・生徒像(ふるさと、人、学びを大切にす甲西の子)を意識して教育活動の推進に努めている。



27. 義務教育 9 年間を見通した教育課程を編成し、実践つなげている。



28. 小中で連携した研究の推進や交流活動を展開することにより、
中 I ギャップの解消につなげている。



出された意見

○小中連携部会で研究が始まり、一部行事等で連携が始まっている。児童生徒同士の交流は多少あるものの教職員間での連携がまだまだ不十分なように思われる。忙しい中ではあるが、9年間を見通した教職員間の意思疎通が普段から気軽に図れるよう工夫が必要だと考える。

【考察・改善点】

昨年度小中一貫校としてスタートした。今年度は、5年生の林間学校、6年生でのボッチャ交流会、中学生とのあいさつ運動や陸上指導など、小中一貫での取組が、本格的に始まった。しかし、まだ多くの課題や改善点がある。来年度以降、活動の改善を図るとともに、教職員間での意見の交流がさらに進んでいくようにしていくことが必要であると考えます。

そして、保護者や地域の方々への周知活動についても、必要になってくる。

令和6年度 大明小の教育について(保護者アンケート)の結果とまとめ

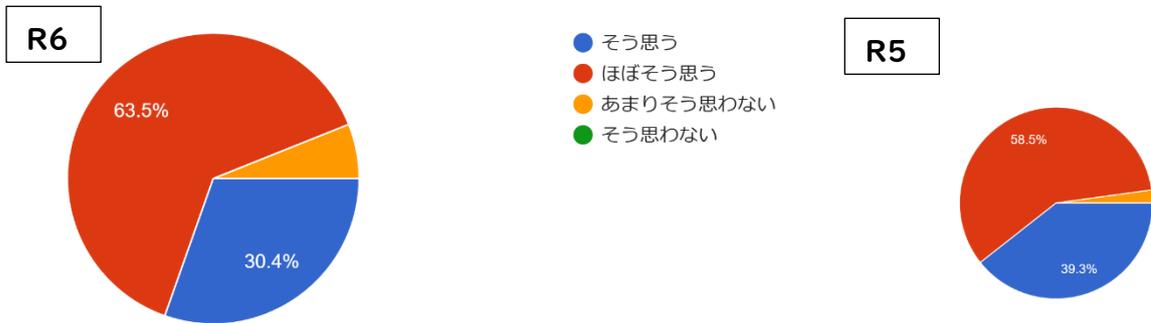
調査対象人数：家庭数 237軒 回答数 181軒 回答率 76.4%

調査実施時期：令和6年 12月4日(水)～12月20(金)

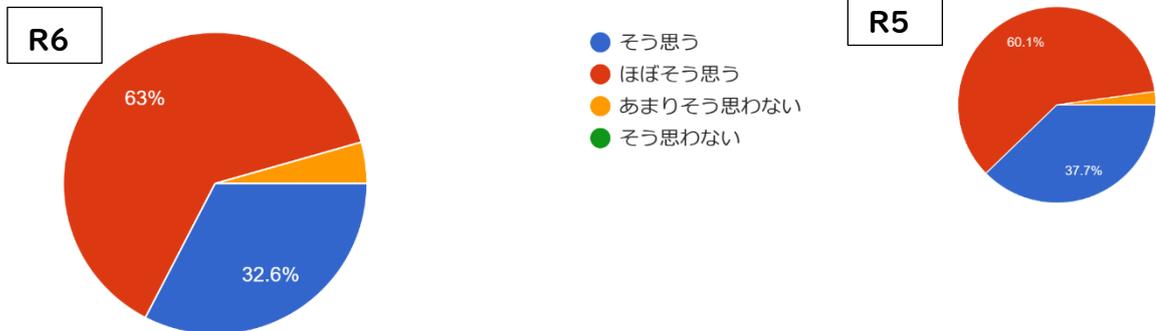
昨年度、評価項目の見直しを行い、2年目の評価となる。左側の円グラフが今年度の評価結果となり、右側の小さな円グラフが昨年度の評価結果となっている。

学校経営・運営

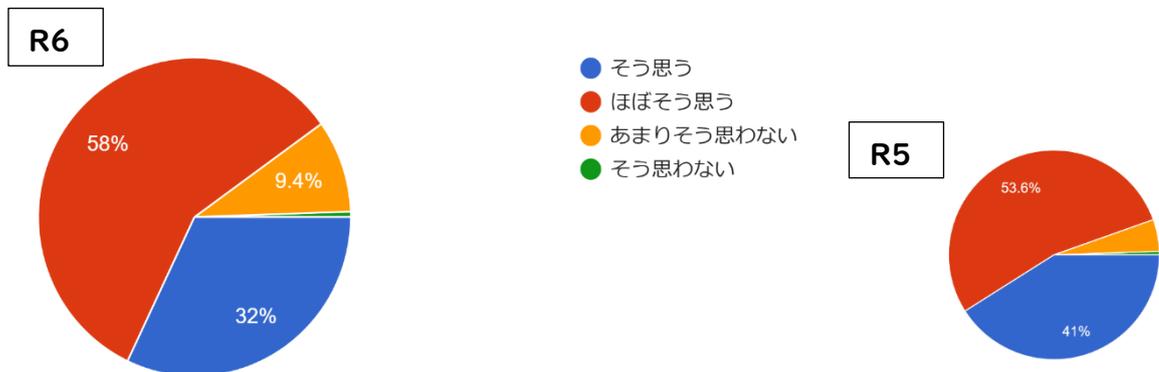
1. 学校は、地域や保護者の期待や要望をくみ取り教育方針や重点的取り組みを設定し、教育活動に取り組んでいる。



2. 学校は、教育活動に適した施設・設備が整っている。

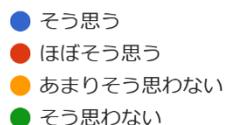
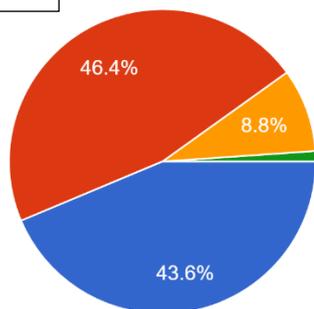


3. 家庭と学校は、連絡や意思の疎通が図られている。

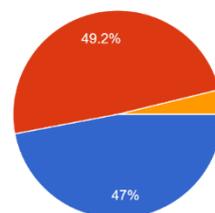


4. 学校からの文書や連絡等は適切である。

R6

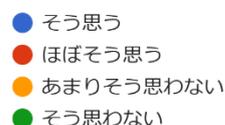
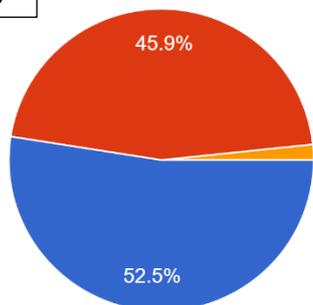


R5

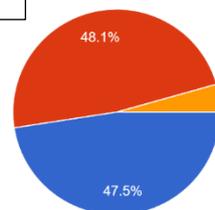


5. 学校は、地震・災害・不審者対策をよく示している。

R6

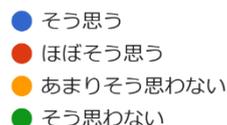
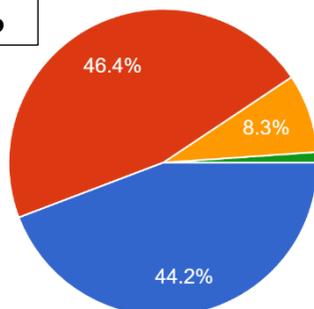


R5

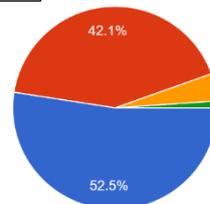


6. 子どもは、学校に行くことを楽しみにしている。

R6



R5



【いただいた御意見】

- 10 今までやっていた活動や取り組みを変える時や新しい活動を始める時などは、学校や大人の都合にならないように、子ども達の気持ちや意見を第一に考えて(尊重して)決めてほしいと思います。
- 行事に関して、特に運動会の内容が来年度より変わるそうですが、今より更に争わないということが残念。学校時代は争わず、大人になり急に争わないとなくなることに対応できるのか疑問です。
- アンケートと関係ないかもしれませんが… 下校時間についてです。今年から統一した下校時間になりましたが、大人になるにつれ臨機応変に対応する機会が増えるので以前のような、日によって下校時間がちがうというのも子ども達には経験するべきことなのかと思います。また、昼休みを、食後の休憩時間とするのは理解できますが、昼休みに身体を動かしてストレス発散になる子どもたちも多々いると思うのでその時間を削るのもどうなのでしょう。
- 30 いつも丁寧に連絡をくださりありがとうございます。
- 親の意見等を聞く前に、決めてしまう物事が多いと感じる。クラス替えや昼休みの件等。

4〇1年生なのでまだ理解が難しいところがあり、学校からの連絡事項等の説明が上手くこちらに伝わってこず、本人含め、分からない事が多々ありますので低学年はサポートをもう少ししてほしい。また、行事ごとに対して連絡が遅いと感じることがありましたし、入学前に持ち物の指定通りに準備したにも関わらずサイズが小さくて使えなかった(図書バック)みたいなこともあって戸惑いました。

- せっかくこういう学校お知らせメールがあるので、担任の入れ替え連絡や授業内容、服装変更があればお知らせしてほしい(子供が連絡プリントを忘れたり、言い忘れなどがある為)。
- 綱引き大会、保護者が参観できることをもっと早く教えてほしかったです。急すぎて、休みを取れなくて、参観することができず、残念です。
- 学年だよりなどの発行が少なく、1、2年生の時に比べて、学校の様子があまり伝わってこないように感じます。また行事のお知らせなどは学年だよりなどに書いてあったとしても、直前に詳しいお知らせがあるといいなと思ったことが何度かありました。また12/12のミニ運動会についても、もう少し詳しい情報が欲しかったです。

6〇子どもは毎日楽しく学校に通い、友達や先生方と良い関係が築けているようなので安心しています

- 子供が安心して通えるような環境づくりをしていただきたいと思います。
- 担任の先生がとてもよい先生で、子どもも楽しそうに学校へ通っています。今後も、よろしく願いいたします。
- 子どもも毎日楽しく登校して、勉強をしているようです。

○体育着について。若草小は今年からポリエルテ素材、ネイビー色のトップスが導入されました。体育着を朝から着ていき、図工や書道、様々な理由から汚れることを考えると保護者としては色つきの体育着は魅力的です。また他の小学校は白色のトップスの指定はあるものの、学校指定ではなく量販店で売っているものでも可能などところもあります。コスト面、衛生面など考えると今の大明小学校の全指定の体育着は時代にあっていないと感じます。給食着について。週一で持ち帰ってきますが、汚れが酷く不衛生です。配膳当番が着るのは分かりますが全員が給食着を着て給食を食べる理由がイマイチ分かりません。毎日着て食べるのなら毎日持ち帰るべきですが、やはり体育着同様に指定の給食着だと家庭によっては何枚も揃えるのはコスト的にもキツイと思います。まして、子どもが何人もいたら子供の数×2枚以上必要になりますよね。学校側は給食着をどういった意図で取り入れているのでしょうか？

【アンケートからの考察】

〈設問1・2〉

保護者や地域の期待や要望をくみ取った教育方針や重点的な取り組み、教育活動に適した施設・設備については、約94%の保護者に肯定的な回答をいただき、学校の教育方針や取組について、理解していただいていることが分かった。しかし、本年度から大きく変わった運動会のことや日課表のことなどに対して、御意見をいただいているので、来年度の行事の際に検討できるようにしていきたい。今後も、保護者の方の声をより丁寧に聞き取り、児童一人一人が輝ける教育活動を展開していきたい。また、教育施設や設備についても、充実した教育活動が行えるよう適宜整備していきたい。

〈設問3・4〉

学校からの連絡や家庭との意思の疎通に関しても90%の保護者の方が肯定的に回答している。担任の先生方が、学校での児童の様子などを丁寧に家庭に連絡したり、対応したりしている結果でもあると捉えることができる。しかし、連絡が、遅いと感じたり、丁寧ではないと感じたりしている保護者の方もいる。また、学校大きな変更について、「保護者の意見を聞く前に決定している」という御意見をいただいている。学校の考えについて、さらに丁寧に説明していくとともに、できる限り、保護者の意見が

届く形での決定を心がけていきたい。今後も、学校での教育活動の様子は、HPや学校・学年だより等の充実を図り、家庭に伝えていくようにしていきたい。また、安心安全メールの活用に充実も図っていききたい。緊急性のあるものとの区別もつけながら、安心メールでお知らせできるようにしていきたい。

〈設問 5〉

災害・不審者対応については、98%以上の保護者が肯定的な回答をしている。今年度、大雨時や熱中諸警戒アラート発生時の下校方法について、登録制としていただいた。今後も、災害時の児童の安全について、保護者と連絡を密にとり進めていけるようにしたい。

〈設問 6〉

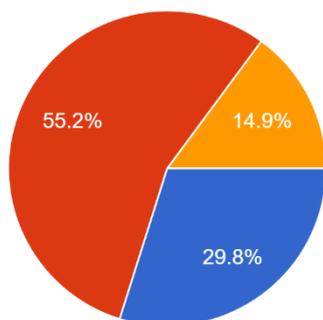
「学校が楽しい」という肯定的な回答が90.6%となっているが、否定的な回答もある。児童のアンケートでも、同じように否定的な回答をしている児童がいることも事実である。学級担任を中心に連携して学校全体で組織的に対応していく。児童の気持ちや体調の変化を見逃さずに、より丁寧な対応や指導・支援を心がけ、多くの児童が「学校が楽しい」と感じられるようにしていきたい。また、保護者の方とは、連絡を密にとり、児童の対応に生かせるようにしていきたい。

体育着や給食着についての御意見もいただいている。今後、保護者の負担や衛生面について検討が必要になってくると考えられる。給食着については、来年度以降、エプロン形式のものも着用できるようにしていく。夏の体育着（上着）についても、検討を行う。

学習・生徒指導

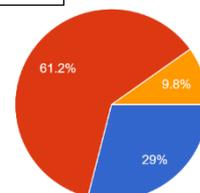
7. 子どもは、授業を十分に理解している。

R6



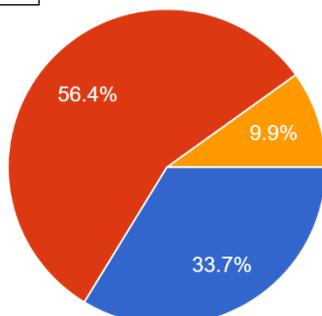
- そう思う
- ほぼそう思う
- あまりそう思わない
- そう思わない

R5



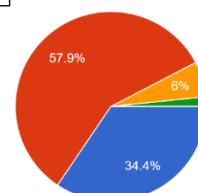
8. 学校は、子どもの学力を向上させるための取組や学習内容の理解をさせるための手立てや支援を行っている。

R6



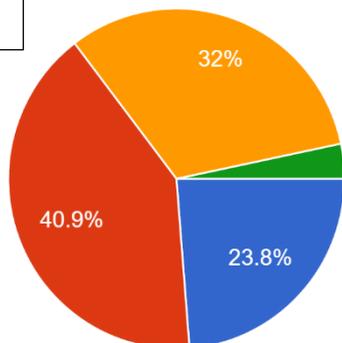
- そう思う
- ほぼそう思う
- あまりそう思わない
- そう思わない

R5



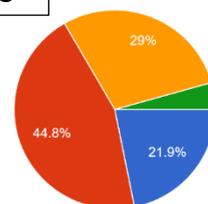
9. 子どもは、家庭学習に意欲的に取り組んでいる。

R6



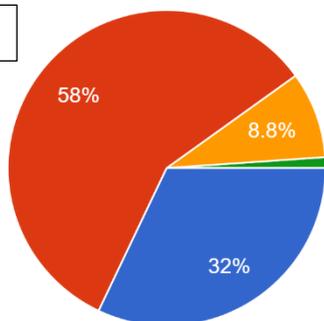
- そう思う
- ほぼそう思う
- あまりそう思わない
- そう思わない

R5



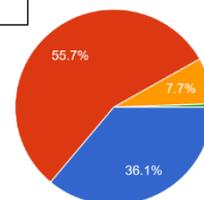
10. 学校は、子どもについての悩みや心配事に適切に対応している。

R6



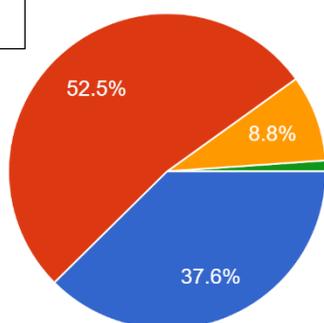
- そう思う
- ほぼそう思う
- あまりそう思わない
- そう思わない

R5



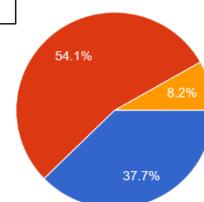
11. 学校は、子どもたちの気持ちを理解し、温かい雰囲気づくりを行い、「いじめ」の防止に努めている。

R6



- そう思う
- ほぼそう思う
- あまりそう思わない
- そう思わない

R5



【いただいた御意見】

80学校での学習時間がどんどん短くなっている。様々なことがからんでるとは思いますが、ますます教育格差が広がっていくのではないかと不安に感じます。

○先生方、忙しい中、様々な工夫ある授業をいつもありがとうございます。

90学力向上も大切ですが、それ以前に子どもたちに基礎学力と家庭学習習慣の定着を意識させたいと思います。学校でもご指導よろしくお願ひいたします。

○学習について学校だけではついていけないところは差があるので、家庭でも塾でもなんとかついていく努力をするしかないのかなあと日々考えています。

○家庭学習の大切さ、家庭学習が習慣化する様な声かけ、環境作りをお願いしたい。いまやっているチャレンジデーを週末に設定して、家庭学習の定着化を図るなど。

○自主学習のやり方等を教えて頂きたいです。

○昼休みがなくなって遊ぶ時間が減り帰ってきてから遊びに行きたいと言い遊びに行きますがそうすると宿題が終わらず・・・と困る毎日です。

100高学年になり、心も身体も成長していく中で、子どもたちが相談できる女の先生や保健の先生がいてくれたら...と感じました。

○忙しいと思いますが、子どもたちの声をどんな小さな事でも聞いてもらえると嬉しいです。

110いじめがありそうですが対応は大丈夫でしょうか？放置や見て見ぬ振りのないようお願ひいたします。児童と先生方がいかに信頼関係を築けるか、ちょうど身体も心も急激に成長する時期で難しいかもしれませんが学校では先生方にがんばってもらうしかありませんのでどうぞよろしくお願ひします。

○先生方には本当に一生懸命に勉強を教えて下さり、生活面でもご指導頂き、ありがとうございます。感謝しております。家庭でもしっかりと生活面のしつけと家庭学習の指導、遊びや会話、家族の交流をして参ります。いつもありがとうございます。これからもよろしくお願ひします。

○交通ルールに対して、子どもたちの意識が全く感じられなく、とても危険に感じる。車が来てるのに急に車の前でダッシュしたり、自転車でも車道を2列で走る(3列の場合は1台が歩道)、後方の確認をせず飛び出すなど。なんなら狭い道で、2列の歩行者がこっちに向かってきたので、対向車も来ていた為停止したら、怒るように子供達に行けよ!と言っている素振りて手で合図された事もありました。

○朝の登校中のことです。役場南西の横断歩道(よく警察官が立って下さっている場所)を渡る班の子どもたちは、止まってくれた車にお辞儀をしてありがとうございますの意思をきちんと伝えていて、素晴らしいです。でも、第一生命の交差点を渡る班は、ガラガラ歩いていて、班が途中で分かれてしまったり、急いで渡ろうという気が見られない上、(いつも女性が立っていて渡らせて下さるからか、)誰もお辞儀をしていません。右折や左折で待っている車は、信号が変わってしまうので、困ります。まとまって歩く、横断歩道はガラガラ渡らないように指導して頂けると助かります。

【アンケートからの考察】

〈設問7・8〉

設問7を肯定的に回答している保護者は85%であった。児童アンケートからも11%の児童が否定的な回答をしていることから、今後も分かる授業づくりに努めていく。設問8を肯定的に回答している保護者は90.1%であった。日々の授業改善の取組や校内研究での授業づくりの取組、今年度から取り組んでいる教科担任制の取組を一定程度理解していただいている結果であると捉えることができる。児童が学習内容を理解することや学ぶことは楽しいと感じることで、「学校へ行きたい、学校が楽しい。」という思いにつながるので、さらに、教職員一人一人が授業の質を向上させるよう努めていく。教科担任制などの取組をさらに広げることで、より多くの目で児童の指導を行っていきたい。また、授業で取り組んでいることや授業の様子について、さらに家庭へ伝えるようにしていく。保護者の皆様にも、授業の進め方や児童の家庭学習の様子について、気づいた点などは担任にお伝えいただくようにし、教職員の授業力向上につなげていきたいと考える。

〈設問 9〉

肯定的な回答が 64.7%、否定的な回答が 35.3%であり、いただいた御意見も多い。家庭学習の定着を図りたいと思っている保護者の方も多く、児童が意欲的に家庭学習に取り組めるような働きかけが必要になってくる。昨年度途中より取り組み始めた「チャレンジデー」について、取組の在り方を考え、児童が自発的に自主学習に取り組んでいけるようにしたい。また、学校で学んだことを家庭で振り返ることができるような宿題の在り方についても検討していきたい。

〈設問 10・11〉

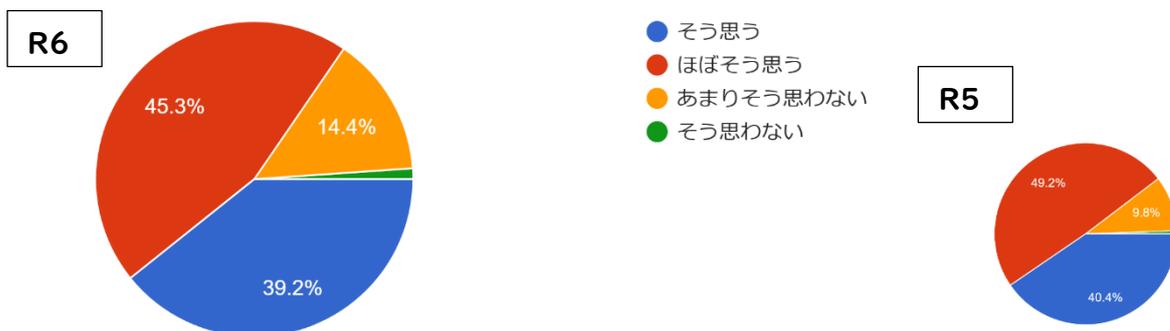
設問 10, 11 ともに、肯定的に回答した保護者が約 90%となっている。担任の先生方が保護者の方と綿密な連絡を取り、児童の指導支援にあたっている成果であると考え。しかし、少数であるが、否定的な回答をしている保護者の方もいるので、今後の課題として対応していきたいと考える。その日に学校であったことなどをその日のうちに家庭に知らせていくようにし、家庭と学校が同一歩調で児童を中心とした対応を心がけていきたい。

また、「いじめ」に関しても、普段から児童とコミュニケーションを密にとるよう心がけ、児童のちょっとした変化に気づけるよう、アンテナを高くしていく。また、多くの目で児童を見ていく中で、教職員間の情報共有も大切にしていきたい。児童の気持ちに寄り添い、「早期発見・早期対応・再発防止」をキーワードに、どの子も笑顔で活動し、満足して下校できるような指導支援に努めていきたい。

児童の登下校の仕方や自転車の乗り方等の交通安全に関する御意見をいただいている。交通ルールやマナーを守る指導について、児童の実態に合わせて、今後も引き続き行っていく必要がある。災害だけではなく、交通安全についても、交通ルールやマナーは、自分の身を守ることにつながるということを指導していきたい。

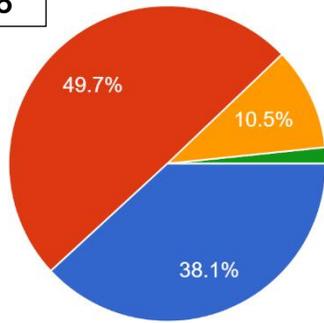
生活習慣

12. 子どもは、「早寝・早起き・朝ごはん」の基本的習慣が身についている。



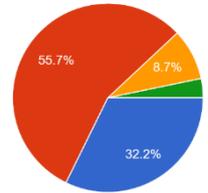
13. 子どもたちは、家庭や地域の中で、あいさつをしている。

R6



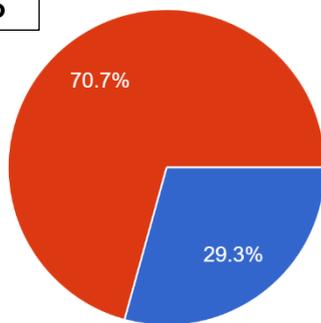
- そう思う
- ほぼそう思う
- あまりそう思わない
- そう思わない

R5



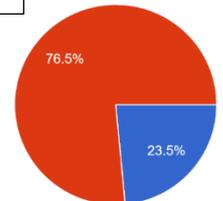
14. 子どもに携帯電話を持たせている。

R6



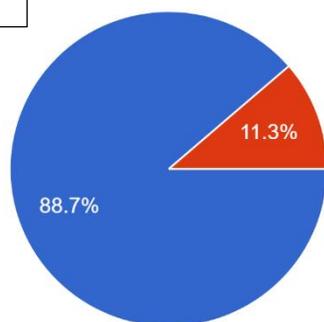
- 持たせている
- 持たせていない

R5



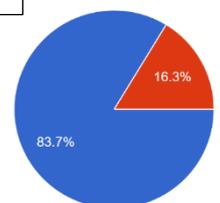
15. 携帯電話を持たせている場合、家庭で携帯電話のルール作りをしている。

R6



- している
- していない

R5



【いただいた御意見】

130子どもたちの挨拶習慣がないことだけが気がかりです。

○兄弟でそれぞれ違う答えの時にどっちの答えを入力したらいいか迷う。

○1 家庭、1 回答でこのアンケート、兄弟が学校に行っているなかで、このアンケートするにあたって差があるので、その間をとった回答しかできず毎回悩みます。

【アンケートからの考察】

〈設問 12・13〉

多くの児童が、規則正しい生活習慣が身についていると考えられる。しかし、15%ほどの児童に改善が必要であることがうかがえる。昨年より若干、否定的な回答が増えている。家庭との連携をさらに進め、児童の生活習慣の確立に向け、今後も継続した取り組みを行っていききたい。

挨拶は、児童とアンケートと同程度の結果である。多くの児童が挨拶できていると感じているが、御意見でいただいているように、若干、挨拶習慣が定着していないと感じている保護者の方もいる。教職員も、明るい挨拶まであと一步と感じている。まずは、学校の中で、誰が見ても聞いても、明るい挨拶ができるようにしていきたい。

〈設問 14・15〉

昨年度、同じ設問に対して、持たせていると回答した家庭が23.5%であったが、今年度は、29.5%となっており、6%近く増加している。持たせていると回答した家庭の88.7%は、ルールを決めて使用しており、これも昨年度より5%増えている。多くの御家庭で携帯電話使用の際のルール作りに御理解・御協力をいただいていることが分かった。しかし、11%程度がルール作りをしていない状況もあるため、今後も、ルール作りについて呼びかけを行っていく。また、児童に対しても、情報モラル教育をさらに推進していく必要があると考える。

小中一貫教育

16. 本年度より小中一貫校としてスタートしましたが、小中の取組について知っていますか。



【アンケートからの考察】

〈設問 16〉

今年度、小中一貫校としてスタートして2年目となった。昨年度より、肯定的な回答が若干少なくなった。小中一貫校として、小学校同士、小中の交流は、進んでいるが、保護者には、見えない部分も多いのだと感じた。今後、当該学年だけではなく、全校的に、周知していくことが必要になる。また、「小中一貫小校」についての理解ができていない保護者の方もいらっしゃるので、そのことについても、新入生説明会やPTA総会などの機会をとらえて、説明していくことも必要になってくる。

令和6年度 児童アンケートの結果とまとめ

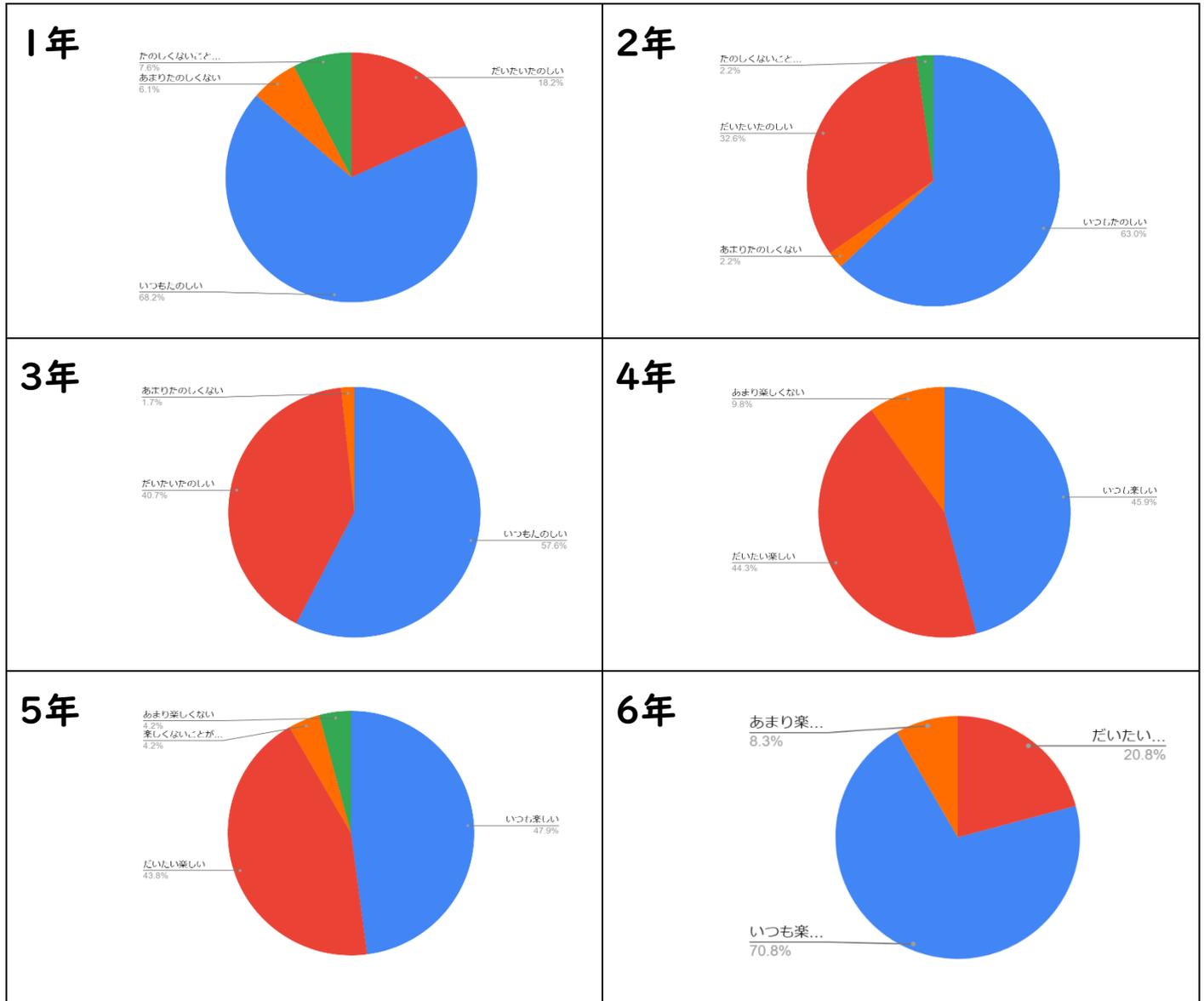
調査実施期間：令和5年12月11日～20日

各設問ごとの回答

・各学年ごとに回答を集計しました。

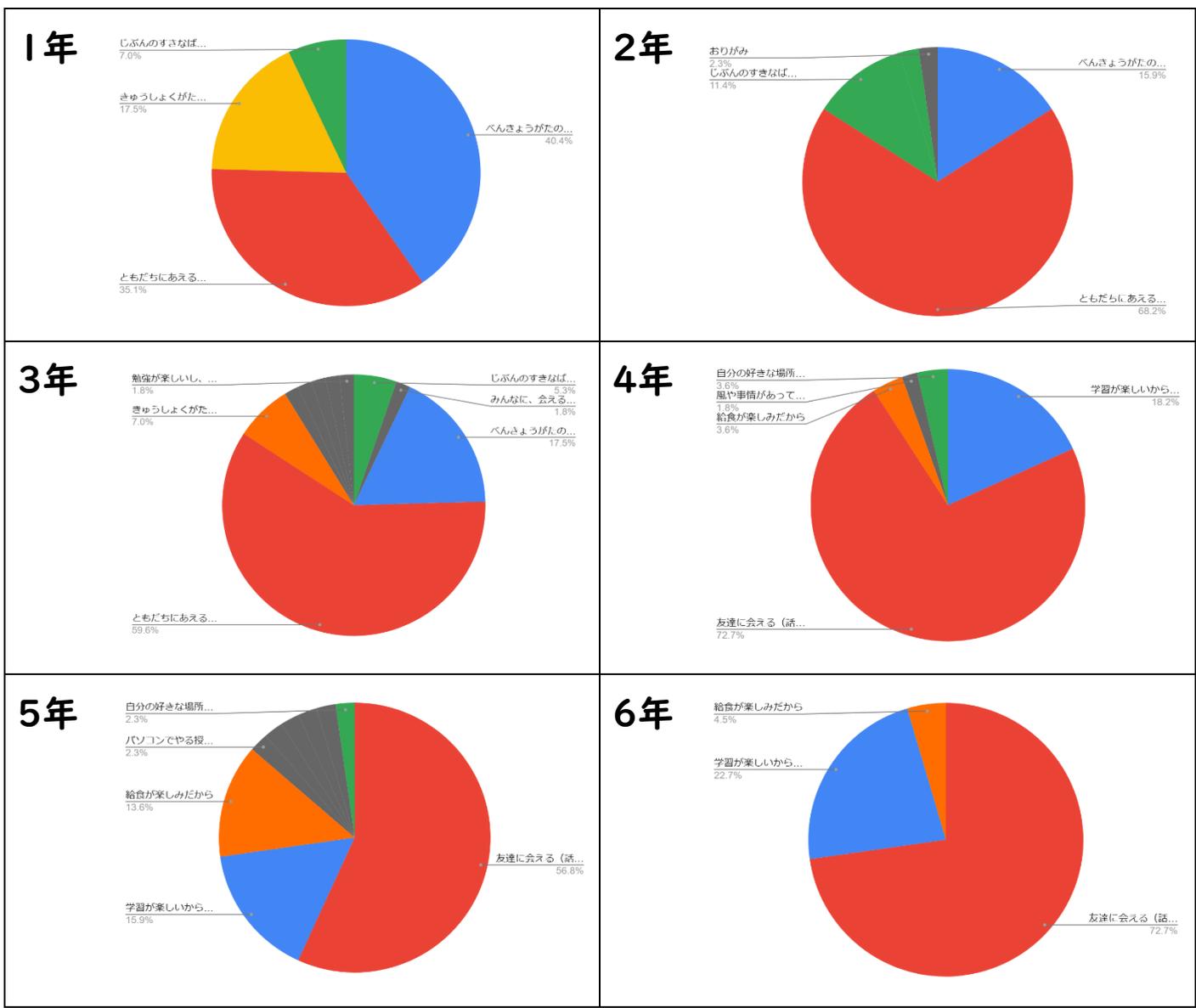
1、学校は楽しいですか？

- 1いつもたのしい
- 2だいたいたのしい
- 3たのしくないことがおおい
- 4たのしくない



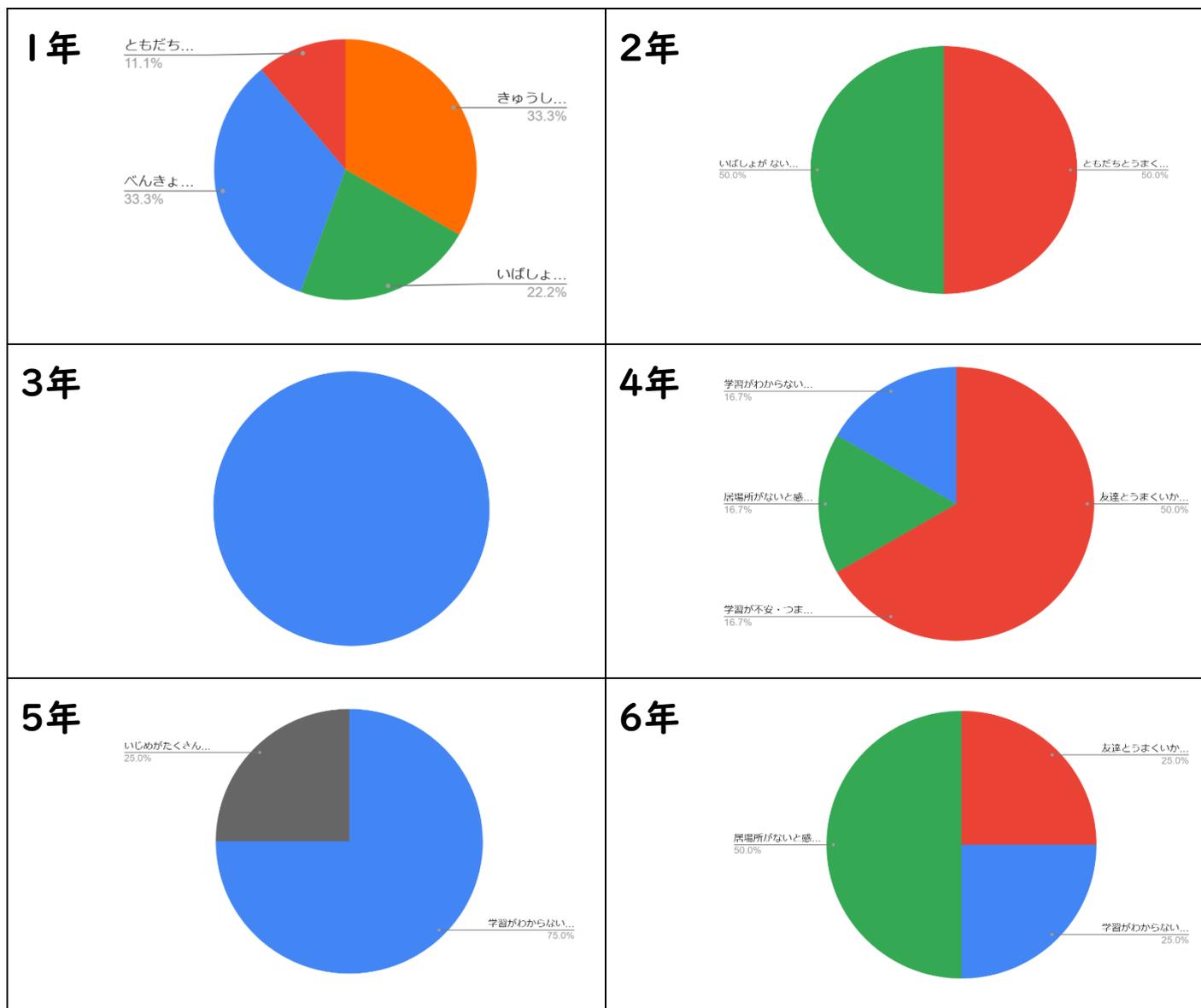
2、楽しい・だいたい楽しいと答えた人への質問です。
そのわけを教えてください。

- 1 学習が楽しいから
- 2 友達にあえるから
- 3 給食が楽しみだから
- 4 自分の好きな場所があるから
- 5 その他



3、楽しくないことが多い・楽しくないと答えた人への質問です。そのわけを教えてください。

- 1 学習がわからないから
- 2 友達とうまうかないから
- 3 給食が苦手だから
- 4 居場所がないと感じるから
- 5 その他



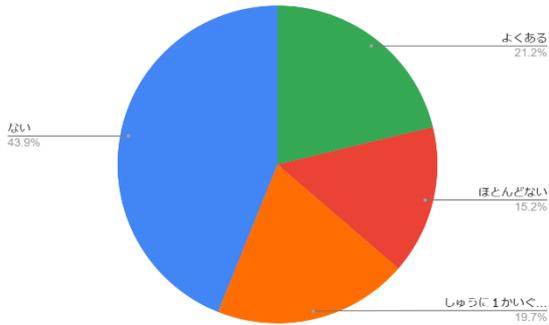
まとめ

- ・2～6年生は、「いつも楽しい」「だいたい楽しい」が90%以上となっている。1年生も85%以上は、肯定的な回答となっている。
- ・「あまり楽しくない」「楽しくないことが多い」と回答した児童の理由を見ると、「学習が分からない」「友達とうまうかない」「居場所がない」となっている。「いじめ」を理由に挙げている児童もいる。
- ・1日のうちの多くの時間を割いている授業で、より分かりやすく、児童の意欲を引き出す授業づくりに取り組んでいくこと、一人一人の児童に合わせた学習支援の方法を考えていくことに全教職員で取り組んでいく。
- ・道徳や学活の時間等を使って、児童の自己肯定感を高め、仲間づくりを深める取組を行っていく。
- ・「いじめ」に関しては、どんな小さいことでも見逃さず、その場で指導、支援ができるよう、これも全教職員が共通の意識をもって取り組んでいくようにする。
- ・家庭との連携も密に行い、児童の気持ちに寄り添った支援をより一層心がけるようにしていきたい。

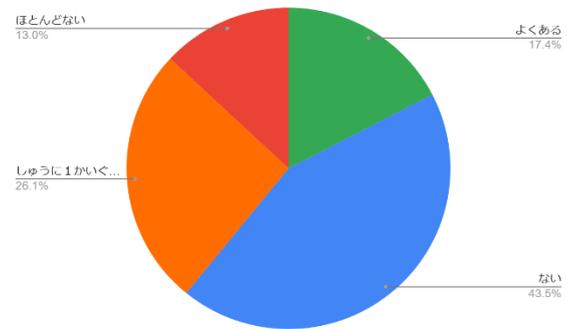
4、学校へ行きたくないと思うときがありますか。

- 1 ない
- 2 ほとんどない
- 3 週に1回ぐらいある
- 4 よくある
- 5 その他

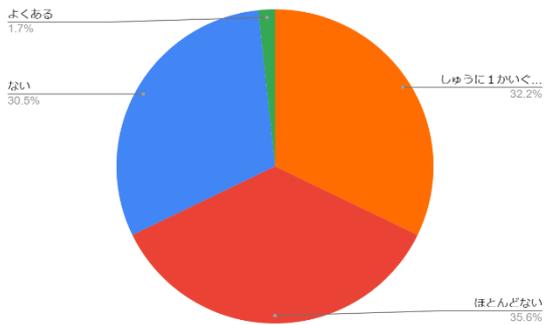
1年



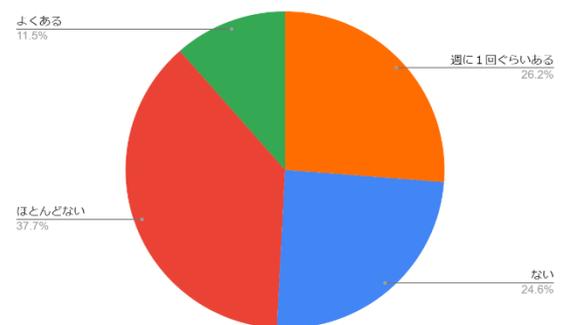
2年



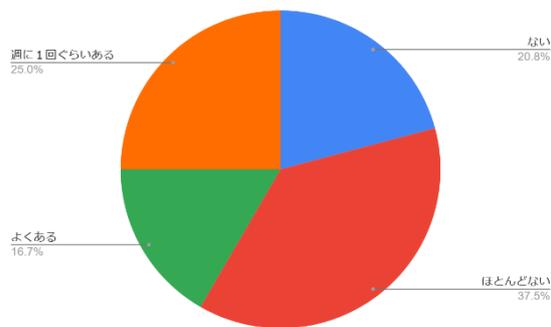
3年



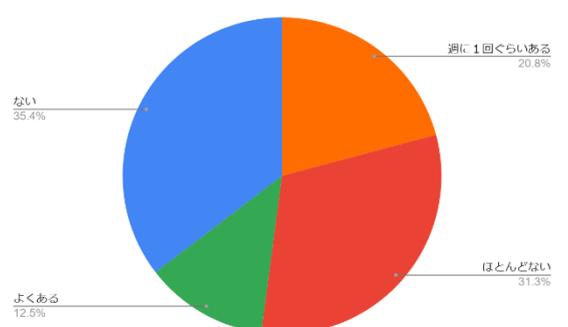
4年



5年

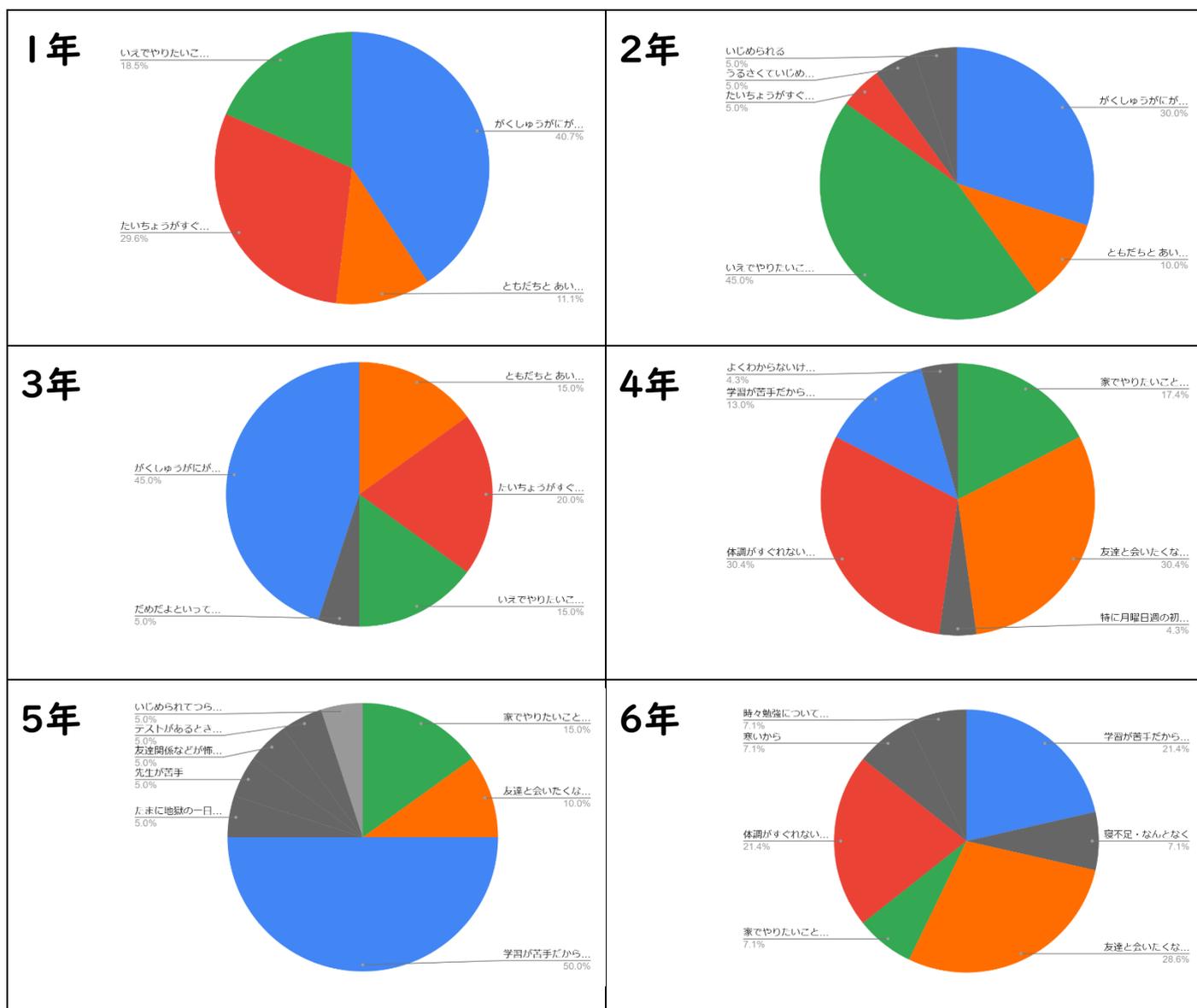


6年



5、週に1回ぐらいある・よくあると
 答えた人に質問です。
 そのわけを教えてください。

- 1 学習が苦手だから
- 2 体調がすぐれないことがあるから
- 3 友達と会いたくないと思うことがあるから
- 4 家でやりたいことがあるから
- 5 その他

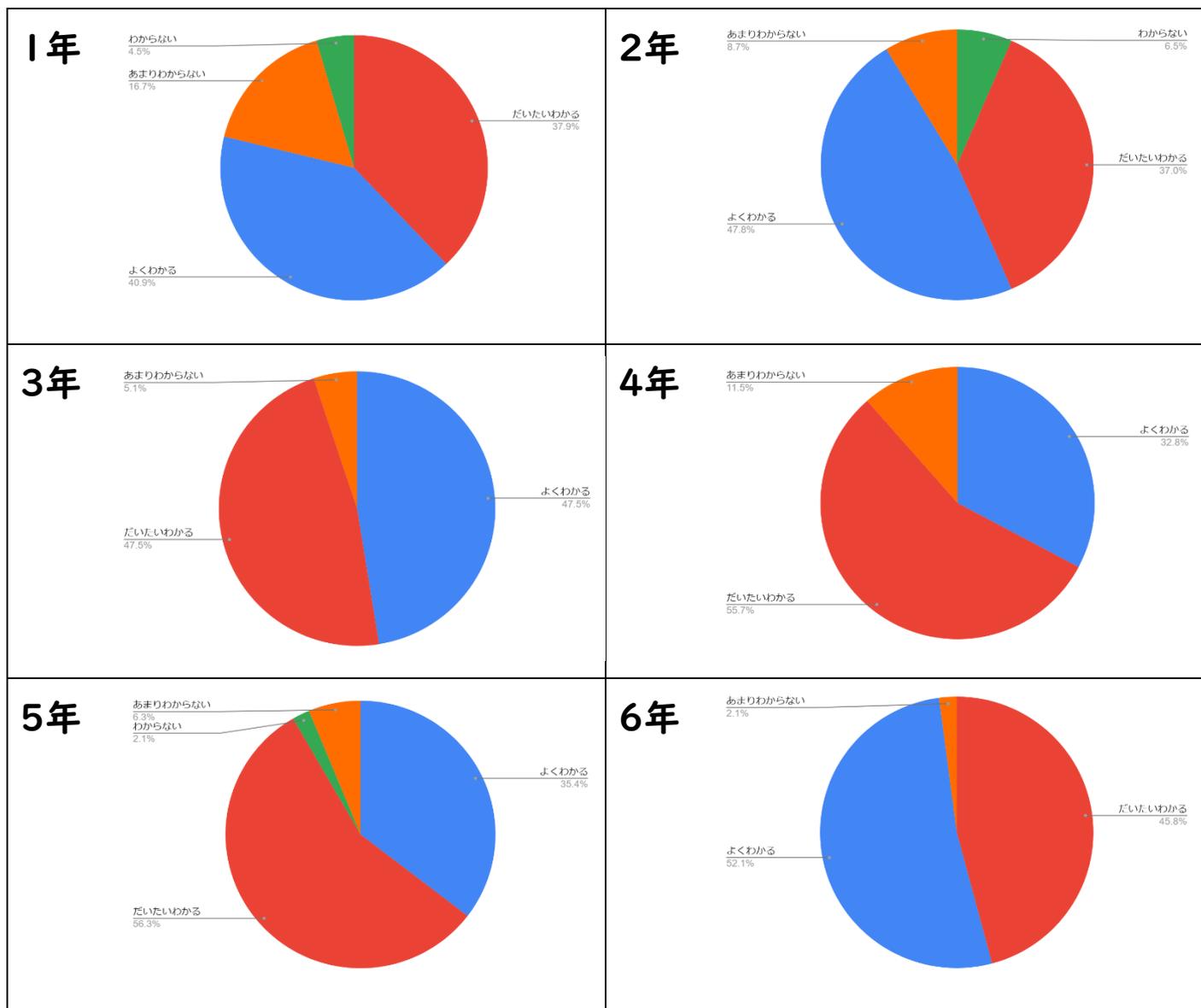


まとめ

- ・学校に行きたくないと思うことが「よくある」「週に1回ぐらいある」と答えた児童は、全校で38.5%となっている。
- ・心配な理由として、「いじめられる」「友達関係」「学習が苦手」があげられる。先の質問と同様、学校が楽しいと思えない理由があげられていることが多いので、今後も丁寧に児童を見取り、対応を考えていくことが重要になる。
- ・「体調がすぐれない」「寝不足」等を挙げている児童もいるため、家庭とも連携し、生活習慣を整え、元気に学校へ登校してこられるよう指導を行っていきたい。
- ・本年度、不登校傾向に児童も数名みられるため、児童が学校へ楽しく通ってこられるよう、全教職員が児童理解を深め、児童の居場所を学校に作っていけるよう努力していく。

6、学校の学習がわかりますか。

- 1 よくわかる
- 2 だいたいわかる
- 3 あまりわからない
- 4 わからない
- 5 その他

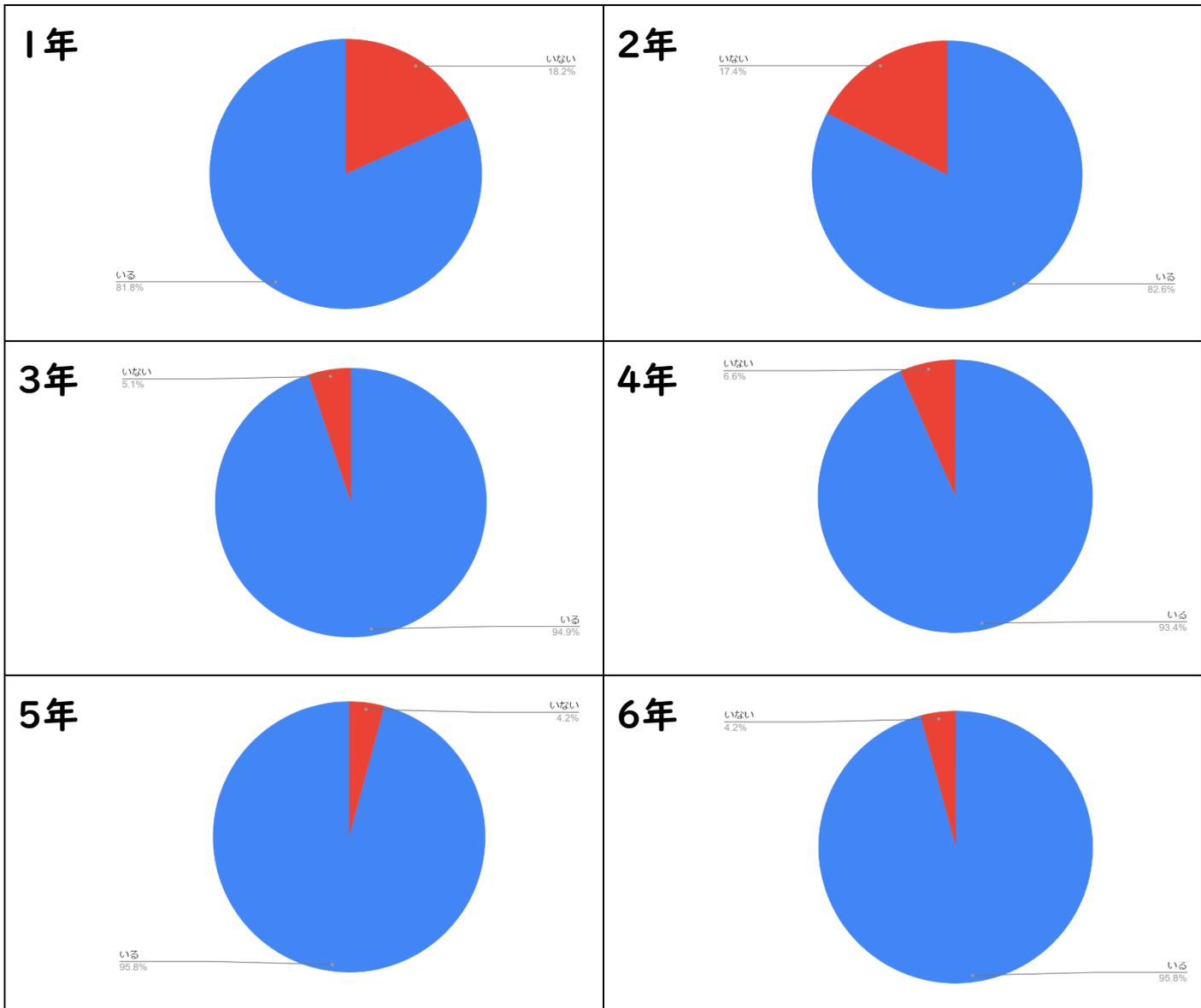


まとめ

- ・全校では、90%近くの児童が「よくわかる」「だいたいわかる」と肯定的な回答をしている。学年別にみていくと、高学年になるほど、肯定的な回答をしている児童の割合が高くなっている。6年間を通して、学習の積み重ねができてきているという成果でもあると捉える。今後も、低学年のうちから、「わかる授業」を展開し、学ぶ楽しさを感じることができる授業づくりに取り組んでいきたい。
- ・また、家庭学習についても、児童の意欲を高め、学校の授業との往還がある家庭学習について研究を深め、家庭と連携を取りながら進められるようにしていきたい。
- ・さらに、今後は、一人一台端末の効果的な活用についても、全校体制で考えていきたい。

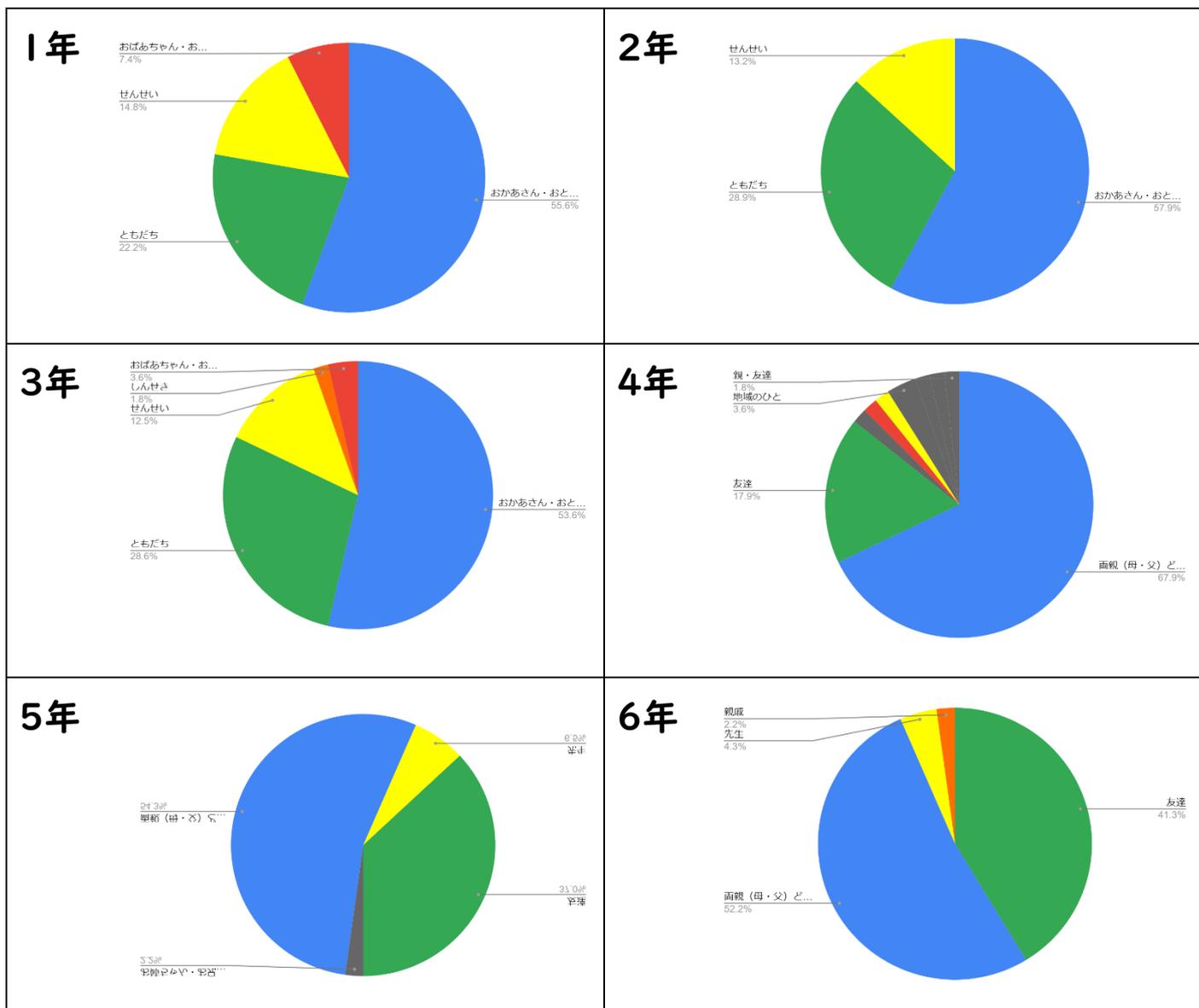
7、困ったときに相談する人がいますか。

- 1 いる
- 2 いない
- 3 その他



8、いると答えた人に質問です。 だれに相談しますか。

- 1 両親
- 2 祖父母
- 3 親戚
- 4 友達
- 5 先生
- 6 その他

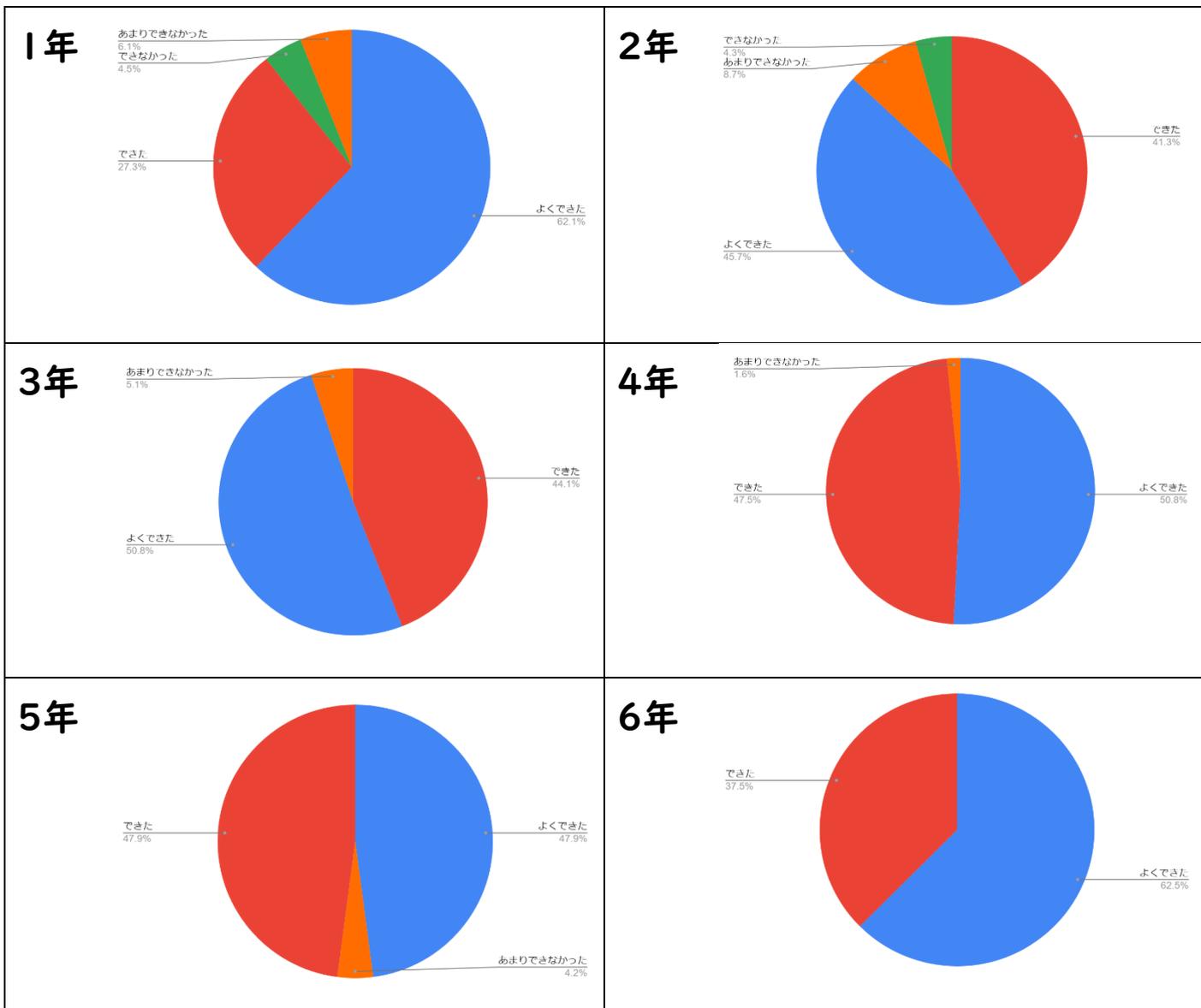


まとめ

- ・困ったときに相談する人が「いる」と回答した児童が、全校で90%となっている。この項目も、高学年になるほど、相談できる人がいないと回答している児童は少なくなっており、良い傾向であると捉えることができる。今後も、児童が、困ったことを素直に吐き出せるように支援していきたい。
- ・10%ほどの児童は、相談できる人がいないと回答しており、今後も、全教職員で全児童を見守っていけるよう学校体制も整えていきたい。
- ・児童が相談する人は、家族が多くなっているため、学校と家庭でより連携を深め、児童の困り感や、変化を見落とさないようにしていきたい。

9、しっかり清掃ができましたか。

- 1 よくできた
- 2 できた
- 3 あまりできなかった
- 4 できなかった
- 5 その他

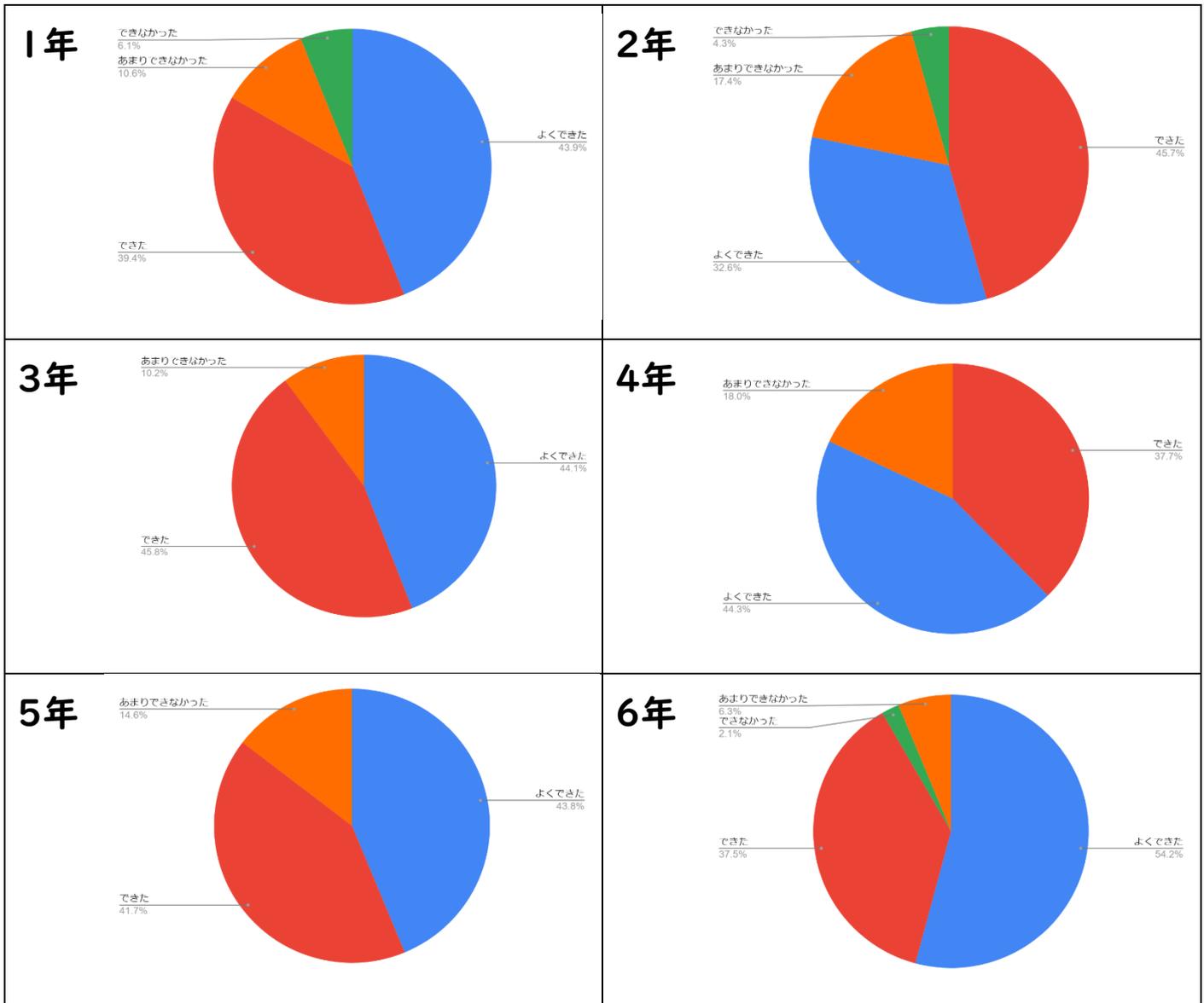


まとめ

- ・今年度、2学期より清掃が週2回となった。多くの児童が、清掃にまじめに取り組むことができたと回答している。本校の児童は、全体的に、良く働くことができる児童である。
- ・教職員の自己評価では、清掃の回数をもう少し増やしたいという意見も出されているため、今後も、「集中清掃」に取り組むことができるよう、指導を続けていきたい。

10、進んであいさつできましたか。

- 1 よくできた
- 2 できた
- 3 あまりできなかった
- 4 できなかった
- 5 その他



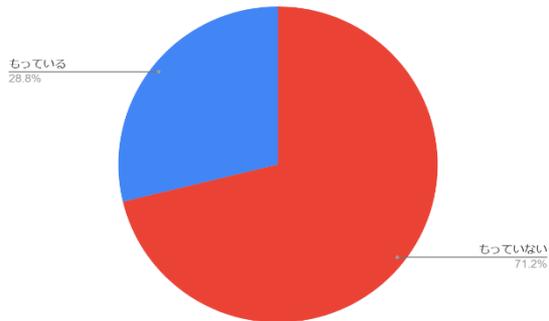
まとめ

- ・全校で約84%の児童が進んであいさつが「よくできた」「できた」と回答している。教職員の自己評価と少しギャップがある項目となっている。「進んであいさつする」という捉えが、児童と教職員の間意識の違いがあるのかもしれない。また、あいさつについては、自分が挨拶をしたという感覚と、受ける相手側の感覚との間にも差が生まれやすいと考える。
- ・具体的な行動を提示しながら、今後も、気持ちの良い挨拶ができるよう、教職員も進んであいさつに取り組んでいきたい。また、明るい挨拶が交せるような心も余裕をもてる学校生活を構築していきたい。

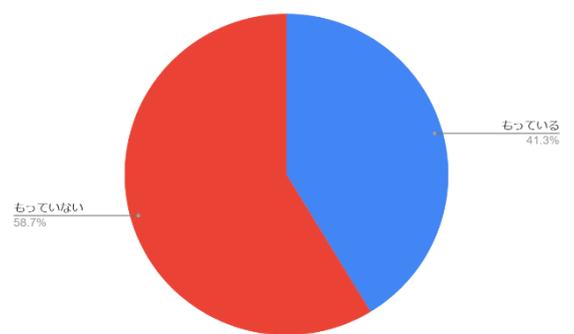
11、じぶんの携帯電話を持っていますか。

- 1 もっている
- 2 もっていない

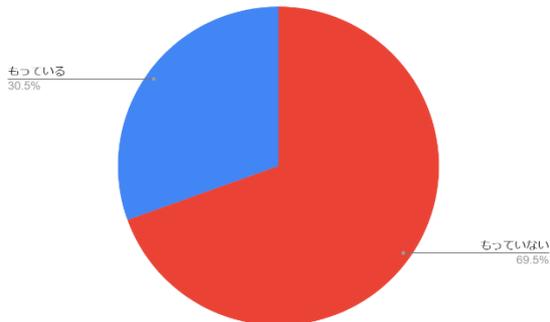
1年



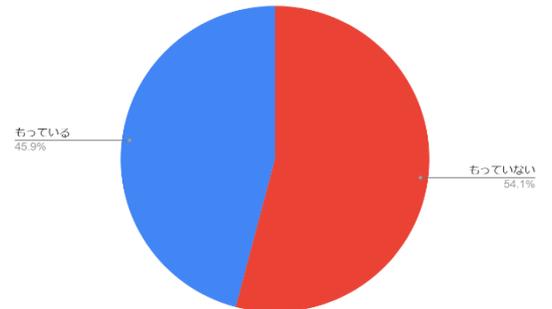
2年



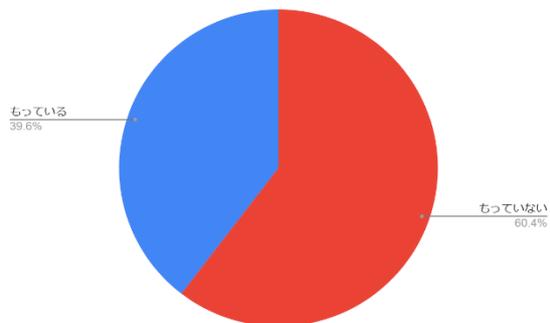
3年



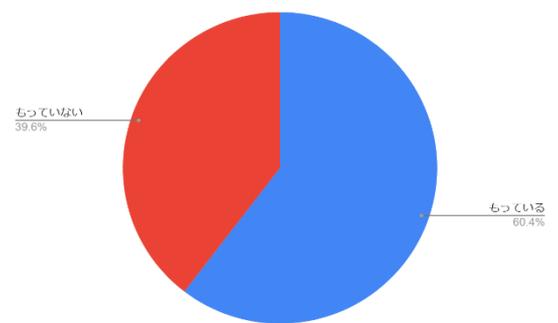
4年



5年



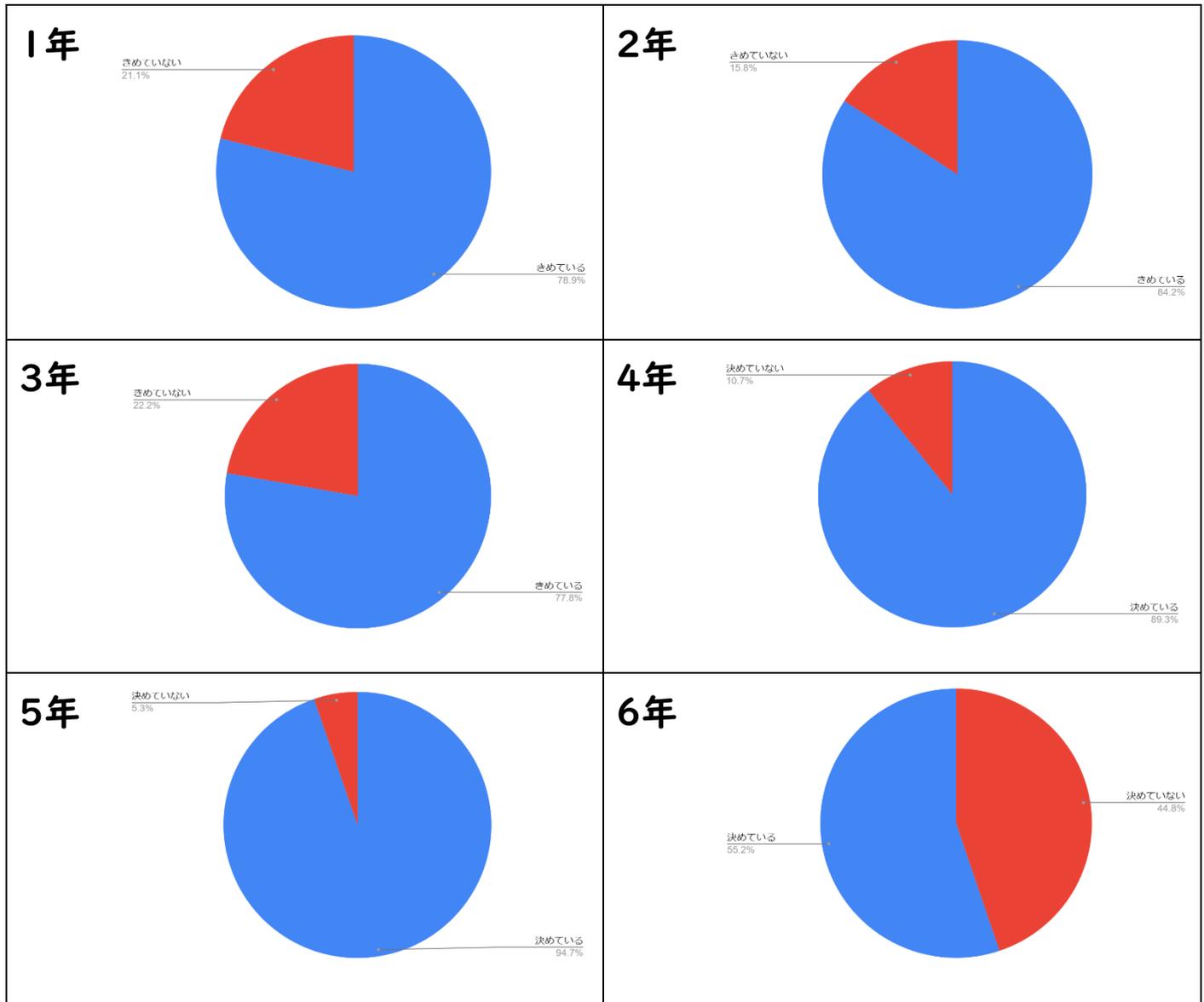
6年



12、じぶんの携帯電話を持っていると答えた人に質問です。
お家の人とルールを決めていますか。

- 1 決めている
- 2 決めていない

今後も、「集中清掃」に取り組むことができるよう、指導を続けていきたい。



まとめ

- ・携帯電話の所持に関しては、学年によって、ばらつきが見られるが、高学年になるほど、所持する児童の割合は高くなっている。持っている児童は、家庭でルールを決めて使用している児童がほとんどである。しかし、決めていない児童もいることから、今後も、家庭と連携し、正しい携帯電話（スマホ・SNS など）との付き合い方について、指導していく必要がある。
- ・特に、6年生で「ルールを決めていない」と回答している児童が多いため、家庭へ呼びかけ、ルールの中で使用ができるようにしていきたい。児童が、事件や事故に巻き込まれるケースが増えているため、SNS が将来に及ぼす影響なども含め、啓発活動を行っていきたい。